SAKAImed

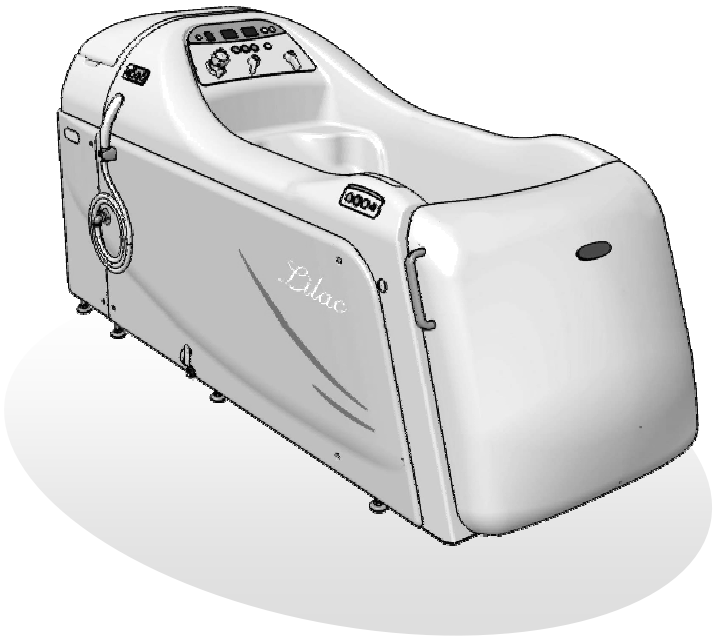
取扱説明書

Lilac

ユニットケア座位浴槽 ライラック

R／Lタイプ

LA−500



✱このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。

✱「取扱説明書」は
・1部を現場用として、常に参照できる状態を保ってください。
・1部を保存用として、大切に保管してください。

01-161⑤KZ

用 途

本製品は、介助を必要とする入浴者を車椅子に座らせた状態で、快適かつ容易に入浴させることのできる入浴装置です。

特 長

●業界一のコンパクト化*

貯湯タンクを浴槽内に内蔵することで、コンパクト化を実現し、ゆったり入れて実使用湯量約 320ℓの業界一の省湯量を実現。

●塩素殺菌装置内蔵の循環方式

貯湯タンクと浴槽内で湯の出し入れを行い、入浴者毎に約 60ℓの湯を自動的に入れ替えることで、清潔なお湯で入浴できる新しいシステムを実現しました。また、貯湯タンクに塩素殺菌装置を内蔵しておりますので、衛生的な入浴が可能です。

●トップクラスの安全性*

高温/低温時の大型デジタル点滅表示、給湯、送湯の自動停止等の温度に関する安全性や扉が閉まる際に一時停止をする挟み込みに対する安全性、更に対面入浴方式により入浴者との対話や状態確認等リラックスした安全な入浴が行えます。

●安心・安全の対面進入方式

介助者が入浴者を常に確認しながら、安全に浴槽内に進入できる対面方式を採用しています。

●介助者の方への優しさも配慮

介助者の動線に沿って操作系を浴槽の片側にレイアウト。また浴槽の縁は介助しやすい高さ(床面から 930 ㎜)と形状にしました。

*平成 19 年 7 月現在当社調べ

もくじ

安全上のご注意 …… 4

各部の名称 …… 10

　各操作部の働き …… 11

組み合わせ …… 13

ご使用になる前に …… 14

　電源 …… 14

　給湯水圧 …… 15

　入浴剤・薬液の使用 …… 15

操作方法（各部） …… 16

　貯湯操作 …… 16

　循環タンク内の湯温調節 …… 18

　ドアの開閉操作 …… 19

　浴槽 ⇔ 貯湯タンク間の送湯 …… 21

　バブラー操作 …… 23

　浴槽内湯温表示 …… 24

　入浴時間 …… 24

　差し湯操作 …… 25

　シャワー操作 …… 26

　湯の排水操作 …… 27

　塩素殺菌装置の操作 …… 28

　非常時の操作 …… 33

入出浴手順 …… 35

入浴終了後の操作 …… 41

日常のお手入れ …… 42

　清掃 …… 42

　メンテナンス …… 44

このようなときには …… 45

機器の保守・点検について …… 47

保証とアフターサービス …… 48

仕 様 …… 49

本書に記載されている会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

安全上のご注意

本製品を安全に正しくご使用していただくために、各注意事項をよくお読みのうえ、必ずお守りください。

注意事項を次のように区分しています。

⚠危険 ・・・ 取り扱いを誤ると、
死亡または重傷を負うことに至るもの

⚠警告 ・・・ 取り扱いを誤ると、
死亡または重傷を負う可能性が想定されるもの

⚠注意 ・・・ 取り扱いを誤ると、
傷害または物的損害の発生が想定されるもの

絵表示の意味

禁　止：してはいけない「禁止」内容のものです。

強　制：必ず実行していただく「指示」内容のものです。

電源・給湯水・給湯水圧

⚠警告

サービスマン以外は、電源の接続を行わない

正しく接続しないと故障や事故の原因になります。

サービスマン以外は、給湯水の接続を行わない

正しく接続しないと水もれ等の故障や事故の原因になります。

適正圧力及び圧力比範囲となるよう管理

適正範囲を外れると、給湯やシャワーの湯温が急変することがあり、入浴者及び介助者がやけどをする恐れがあります。(P.15 給湯水圧参照)

⚠注意

使用電圧は三相 200V ±5%の範囲内で使用する

範囲外の場合には機器の故障及び誤作動の原因となります。

⚠ 危険

次亜塩素酸ナトリウムは酸性の製品の近くに置いたり、一緒に用いない
人体に有害な塩素ガス等の発生の恐れがあります。万が一塩素ガスを吸込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

誤って薬液を飲んだり、目に入った場合は、応急処置後、医師に相談する
- 万一飲み込んだときは吐かせずに多量の水や牛乳を飲ませ、「次亜塩素酸ナトリウム」を飲んだと言って医師にご相談してください。
- 万一目に入ったときはすぐにきれいな水で 15 分以上洗い流し、医師の診察を受けてください。

⚠ 注意

当社指定外の薬液を使用しない
当社指定外の薬液を使用すると、浴槽の金属部や電気部品、ゴム部品等を腐食させる恐れがあります。当社指定以外の薬液のご使用により装置が故障した場合は、保証期間内の製品でも、保証対象となりませんのでご注意ください。

イオウ成分の入った入浴剤は、使用しない
ご使用になると、浴槽の金属部が腐食等を起こしたり、浴槽表面の光沢を失ったりする恐れがあります。

粉末状の入浴剤は使用しない
ご使用になると、溶け残ったものが配管内に付着して故障の原因になる恐れがありますので、入浴剤は液状のものを使用してください。
どうしても粉末状の入浴剤を使用したい場合は、別容器でよく溶かしてから使用してください。ただし、粉末状の入浴剤を使用したことによる故障については、保証期間内の製品でも保証対象となりませんのでご注意ください。

着色性の入浴剤を使用する際は注意する
まれに色や、においが付くことがありますのでご注意ください。

薬液補充の際は注意する
- 十分に換気を行い、保護具（ゴム手袋）を着用してください。
- 各注意事項をお守りください。
- 周囲に薬液がこぼれた場合は水でよく洗い流してください。床やフレーム等の変色や錆の原因となります。
- 薬液を付属の希釈ボトルで作った後はすぐに補充し、作り置きはしないでください。
- 希釈した薬液は、1 回毎に使い切ってください。
- 空になった容器は、よく洗い流して処理してください。

補充薬液は濃度を 1.5%に希釈した溶液を使用する
濃度が異なると殺菌効果への影響や、機器の故障につながります。

使用期限内のものを使用する
薬液は、経時変化により殺菌効果が弱くなります。容器に表示されている使用期限内でご使用ください。

薬液が誤って人体または衣服についた場合は、すぐにきれいな水で洗い流す
液が皮膚についたときはぬめり感がなくなるまで洗い流してください。

薬液の排出の際は注意する
- 十分に換気を行い、保護具（ゴム手袋）を着用してください。
- 排出する薬液は濃度を水で十分に薄めてから処理してください。

⚠ 警告

送湯中や入浴中の入浴者の状態に注意

水没等がないように、常に看視してください。

ドアを閉じるときは挟み込みに注意

入浴者の足先や手先が挟み込まれると、けがをする恐れがあります。

ドアを開閉するときは周囲を確認し、入浴者の手足に注意

ドアの動作範囲内に人や障害物があると、事故の原因となります。また、足先や手先が挟まれると、けがをする恐れがあります。

車椅子を進入させるときは、入浴者の足元に注意

- 入浴者の足がフットレストからおちていると浴槽進入時に浴槽に足をぶつけ、けがをする恐れがあります。
- 入浴者の足先がフットレストからおちていると底面シールに挟み込まれて、けがをする恐れがあります。

非常時のドアフックを解除する前に必ず浴槽内の湯を完全に排水する

浴槽内に湯があると水圧でドアが勢いよく開いたり、多量の湯が一度に放出され危険です。また、停電や装置の故障時以外は、危険ですので操作しないでください。

急速排水するときは、急激な湯の流出に注意

浴槽底面から多量の湯が一度に放出されるので、入浴者の状態や介助者の足元に注意してください。

車椅子使用時は安全ベルトと手すりを使用

車椅子を使用するときは安全ベルトと手すりを使用してください。

リクライニング操作は、ゆっくりと

リクライニングを起こすときに勢いよく持ち上げると、車椅子後方が浮き上がり、前に転倒する恐れがあります。

リクライニング角度を 13 ° (洗髪・洗身作業など)で使用するときは注意

入浴者の頭部に力をかけたり、足を持ち上げたりすると転倒する恐れがあります。

入浴用車椅子上での移乗・洗髪・洗身作業時の注意

狭い入浴用車椅子上での移乗・洗髪・洗身作業は入浴者の転倒や落下の恐れがあります。体位変換作業は、介助者の方向へ抱き寄せるようにして、入浴者の落下を介助者が体で防止しながら十分注意して作業を行い、洗身時はベルトを使用してください。

⚠ 注意

ドアに無理な力をかけない

無理に開閉したり、開いたドアにぶらさがったりすると、破損する恐れがあります。

急速排水するときは、あふれないように注意

狭い浴室や出入口が近くにある場合などは、隣室に排水があふれる恐れがあります。

急速排水中は、入浴者の状態に注意

浴槽内の湯を速く排水させるため、入浴者の気分が悪くなる場合がありますので、入浴者の状態に注意してください。

失禁等で急速排水を使用する場合、排泄物を取り除いてから排水する

排泄物を取らないと排水管が詰まり、排水があふれる恐れがあります。また、衛生管理上や配管の目詰まり防止のため、湯は循環タンクに戻さず排水してください。

急速排水の完了を確認してからドアを開ける

浴槽に湯が残っていると浴室に流れ出し、事故の原因となります。

車椅子の各操作は、ゆっくり

入浴者に不安感を与えないように勢いをつけず、ゆっくり行ってください。

浴槽進入時にはフットレストを必ず持ち上げる

フットレストを持ち上げないまま浴槽に進入させるとハンドルが浴槽に当たり事故につながります。必ずフットレストを浴槽内進退用ハンドルで持ち上げてから浴槽へ進入させてください。

⚠ 警告

ハンドシャワーをかけたままにして入浴者から離れない

介助者が離れている間に温度が急変し、やけどをする恐れがあります。

送湯前に、必ず循環タンク内の温度表示と手で湯温を確認

入浴開始前には必ず循環タンク内の湯温をタンク内の温度表示と手で確認してください。確認しないで入浴スイッチを押すと、温度センサー等が故障した場合、高温の湯が止まらないで浴槽に送湯され、入浴者にやけどを負わせる恐れがあります。特に、**午前又は午後の最初の入浴者の場合**は、必ず循環タンクの蓋を開けて手で湯温を確認してください。

皮膚の弱い方等の入浴には給湯温度に十分注意する

お湯の温度が高めだとやけどをする恐れがあります。

差し湯をするときは、給湯温度表示と手で湯温を確認

温度センサー等が故障した場合、高温の湯が浴槽に流れやけどをする恐れがあります。また湯の出し始めや温度設定をした後は温度が安定していない場合があるので、しばらく湯を流して、温度を確認してください。

浴槽→循環タンクに湯を戻すときは、差し湯を止める

差し湯を高温にしている場合、浴槽内の湯が少なくなると入浴者に直接かかり、やけどをする恐れがあります。

ハンドシャワーを入浴者にかける前や使用中にも手で湯温を確認

- 熱い湯が配管内に溜まっていたり、温度センサー等が故障した場合、高温の湯が吐水される場合がありますので、しばらく湯を流して、温度を確認してください。
- 湯温調節ノブを回した後、湯温が設定温度になるまでに数秒かかります。
- 湯温調節ノブで温度調節した後でも、給湯・給水の水圧の急変により、シャワーの温度が急に変わることがありますので常に手で湯温を確認してください。

給湯ミキシングレバーはゆっくり回す

急に回すと温度が急激に変化し、やけどをする恐れがあります。

高温でお湯を使用した後は、必ず温度設定を適温に戻す

そのままにしますと、次に使用するときにやけどをする恐れがありますので、給湯ミキシングレバーを低温側に回して、しばらく湯を流してください。

⚠ 注意

浴槽へ送湯するときは、循環タンクの蓋を閉じる

送湯中に循環タンク内に物が落下すると、配管内に吸い込まれ故障の原因になります。

貯湯タンク→浴槽へ送湯中に停止し、ドアを開く場合は、流れ出る湯に注意

浴槽下面やドアと浴槽の間から、勢いよく湯が流れ出しますので、注意してください。

高温で差し湯を使用した後は、必ず温度設定を適温に戻す

給湯ミキシングレバーは差し湯と貯湯タンクの給湯温度の調節を兼用しています。差し湯で温度を高く設定して使用していると、湯温が上昇する場合があります。

シャワーの使用後は湯量調節レバーで湯を止めてから、シャワーホース内の加圧水をすてる

手元ボタンのみでシャワーの ON/OFF 操作を行っていると、シャワーヘッドの寿命が短くなります。またホース内に加圧された水を残こしたままにすると故障の原因になります。

⚠ 警告

急速排水スイッチが設置されているメンテナンス用カバーを開けない

急速排水スイッチが設置されているカバーはメンテナンス用です。サービスマン以外は、カバーを取りはずして中の機械に触れないでください。

⚠ 注意

操作スイッチにシャワー等で水をかけない

水がかかると電気系統の故障の原因になります。

使用後は、ドアシール及び底面シールを作動させない

車椅子を浴槽内に入れ長時間シールしたまま放置すると、シール性が低下して水漏れする恐れがあります。

シール部に挟まった毛髪やごみは取り除く

挟まったまま使用すると、水漏れの恐れがあります。

入浴しないときは、ドアシール及び底面シールを作動させない

長時間シールしたまま放置すると、シール性が低下して水漏れする恐れがあります。

この製品は、一部に天然ゴムを使用しています

かゆみ、発赤、蕁麻疹、むくみ、発熱、呼吸困難、喘息様症状、血圧低下、ショックなどのアレルギー性症状をまれに起こすことがあります。このような症状を起こした場合には、直ちに使用を中止し、医師に相談し、適切な措置を施してください。

使用後は、貯湯タンク内の湯を排水する

水垢などが貯湯タンク内面にこびりつき、汚れが落ちにくくなります。

使用後は、必ず換気を行い室内の湿度を下げる

湿気による錆やかびなどの発生を抑えます。

使用後は専用安全ブレーカーを切る前に、必ず排水して給湯ランプの消灯を確認してから、電源スイッチを長押しして、表示ランプ類を消灯する

給湯ランプが点灯している状態で、専用安全ブレーカーを切ると、貯湯タンク内に水が給湯され続けます。給湯ランプが消灯していることを確認してから、電源スイッチを押してください。尚、給湯の自動停止には数秒掛かりますので、電源切後は約 15 秒おいた後に、専用安全ブレーカーを切ってください。

納入時のビニールカバーは、破棄する

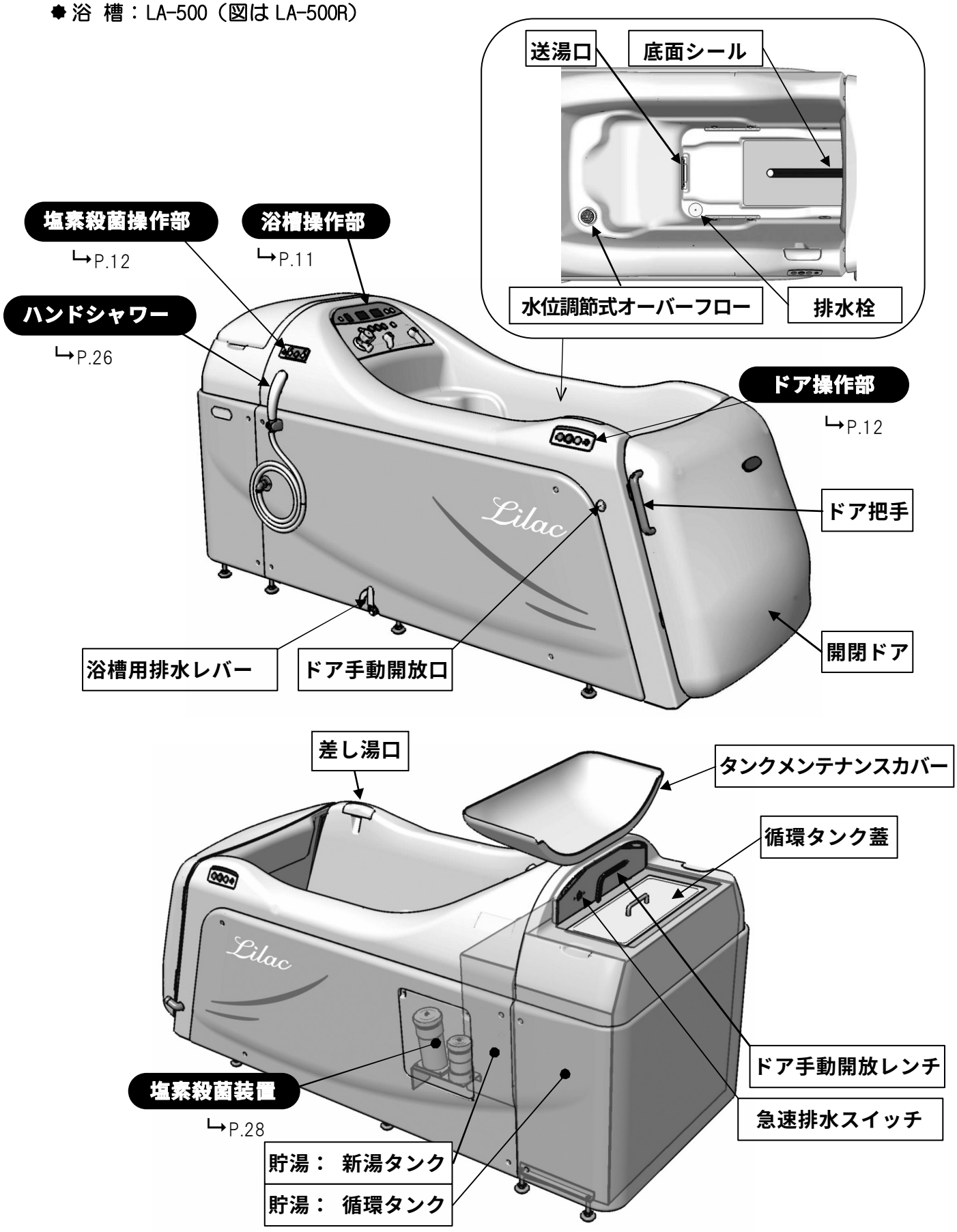
製品にかけて使用すると、錆などが発生しやすくなるので、絶対に使用しないでください。

必ず付属のシリコングリスを使用する

他のグリスを使用すると、故障の原因になります。

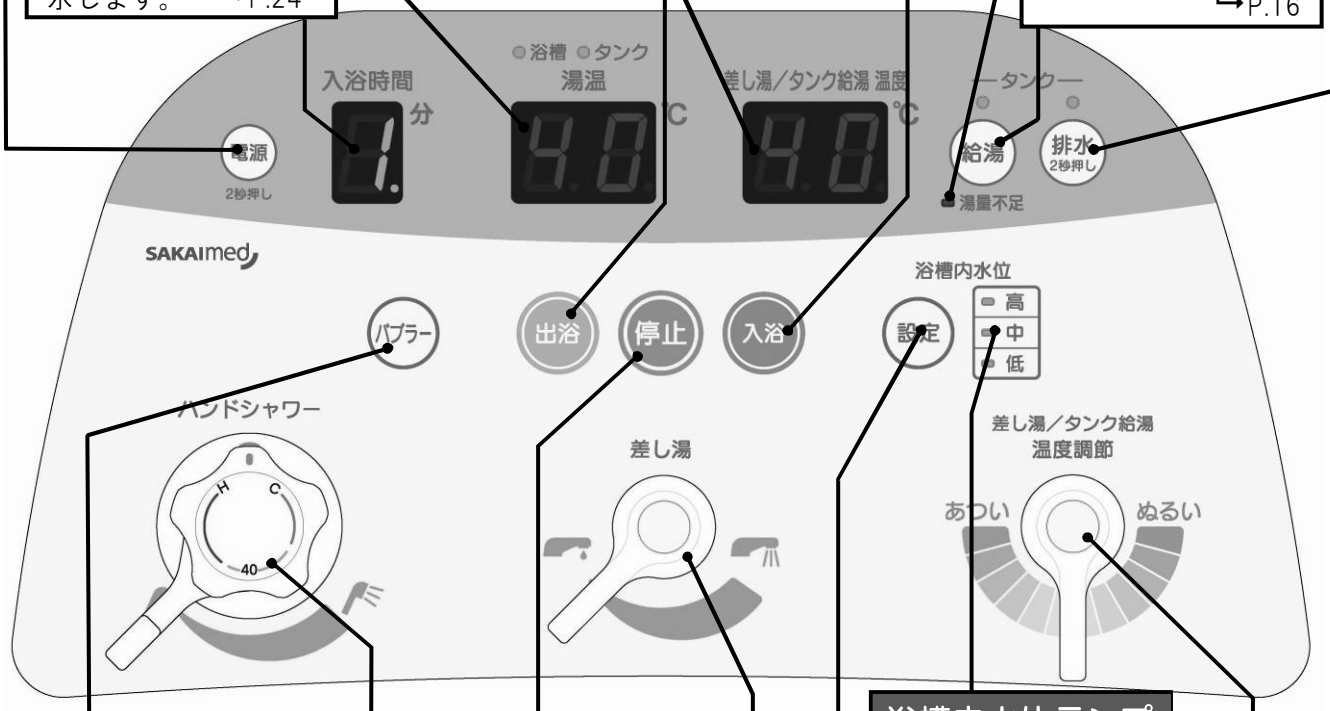
各部の名称

● 浴 槽：LA-500（図は LA-500R）



各操作部の働き

● 浴槽操作部



浴槽/タンク湯温表示部

浴槽内温度及び循環タンク内温度を上部ランプで表示します。
高低温時･･･点滅 ↳P.18、24

差し湯/タンク給湯温度表示部

差し湯と貯湯タンクへの給湯温度を表示します。
高/低温時･･･点滅 ↳P.16、25

湯量不足ランプ

貯湯タンク
湯量不足… 点灯
給湯中 … 点滅 ↳P.16

電源スイッチ

電源の切/入ができます。
（約 2 秒間長押し）
↳P.14

出浴スイッチ

浴槽内→循環タンクへ湯を戻します。
↳P.22

入浴スイッチ

貯湯タンク→浴槽内へ送湯
↳P.21

排水スイッチ

貯湯タンクの排水ができます。（約 2 秒間長押し）
↳P.27

入浴時間計

入浴の経過時間を表示します。 ↳P.24

給湯スイッチ

押すごとに自動給湯の切/入ができます。
↳P.16

浴槽内水位ランプ

設定した水位を表示します。
↳P.21

バブラースイッチ

押すごとに気泡浴の切/入ができます
↳P.23

停止スイッチ

送湯を停止します。
↳P.23

浴槽内水位設定スイッチ

押すごとに低→中→高と水位の設定ができます。
↳P.21

シャワーミキシング

ハンドシャワーの入/切及びシャワー温度を設定します。
↳P.26

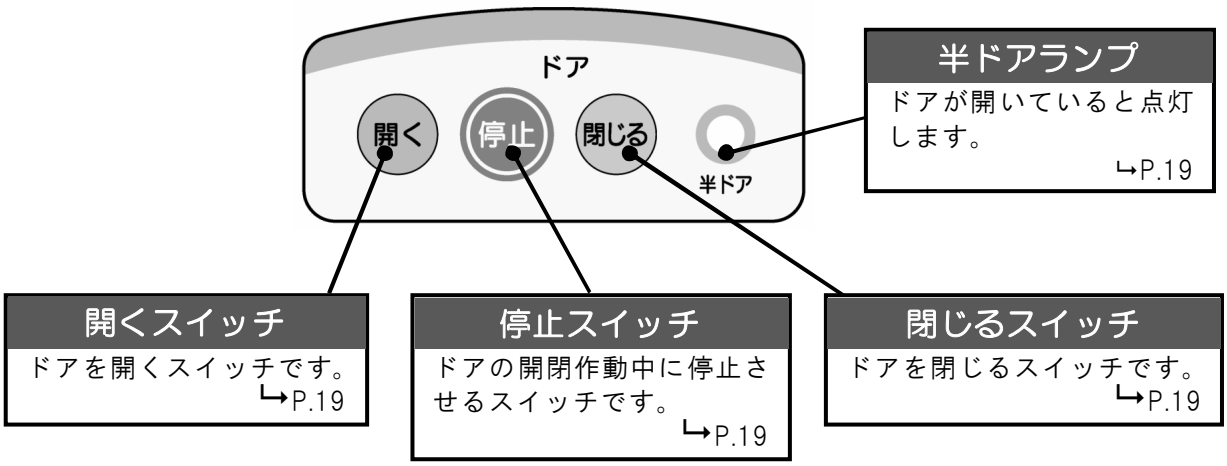
差し湯バルブ

差し湯の入/切及び差し湯流量の調節をします。
↳P.25

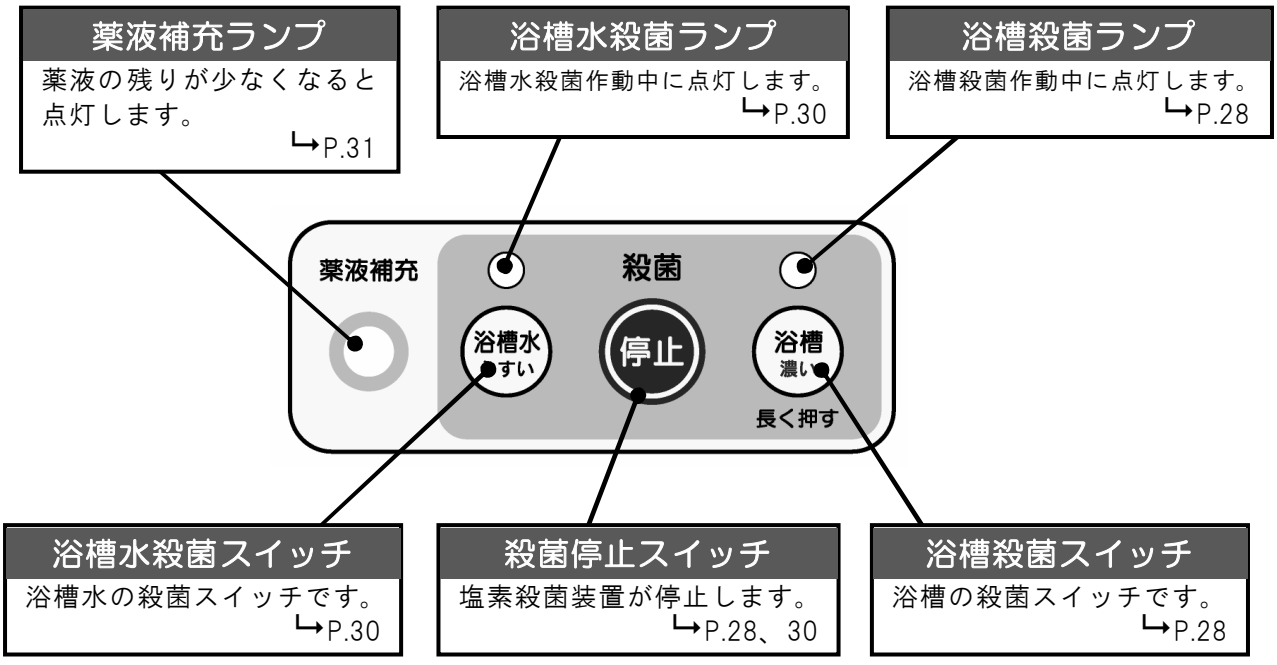
給湯ミキシング

貯湯タンクへの給湯温度及び差し湯の温度を設定します。
↳P.16、25

ドア操作部



塩素殺菌操作部



組み合わせ

LA-500 構成

・浴　　槽　　LA-500 ： ・・・1台

・入浴用車椅子 LA-500C： ・・・1台

● 浴槽の種類

浴槽（右扉）	LA-500R
浴槽（左扉）	LA-500L

● 周辺装置(別売り)

入浴用車椅子　　・・・・・LA-500C

浴槽と入浴用車椅子を組み合わせて使用します。

操作方法については、それぞれの 取扱説明書 をご覧ください。

ご使用になる前に

ご使用前に本製品について P.46 **始業点検項目**にもとづき、始業点検を実施してください。またこれ以外でも部品の破損や、日頃お使いになられていたときとは違う異常を感じましたら、本製品を使用せずに、電源を切って最寄りの営業所にご連絡ください。破損、異常を感じたままのご使用は、危険ですから絶対におやめください。

新品時は、FRP 特有のにおいがすることがありますが、使用上問題はありません。十分換気を行ってご使用ください。においは使っているうちになくなります。

●ご使用中に…

万一故障が発生した場合は、ただちに入浴者を安全な場所に退避させた後、使用を中止して最寄りの営業所へご連絡ください。

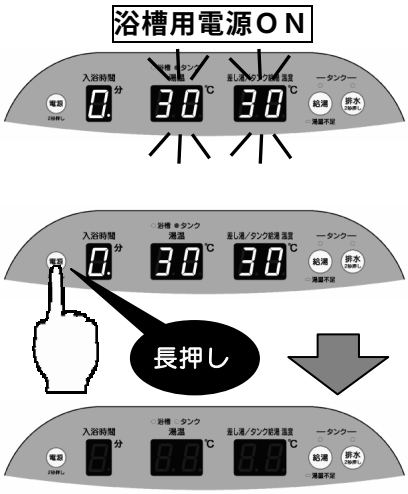
電源

本製品は設置時に、配電盤内にある専用安全ブレーカーに接続されています。

使用前に専用安全ブレーカーに異常がないことを確認してください。

専用安全ブレーカーを入れ、浴槽操作部の表示ランプ類が表示されていることを確認してください。

専用安全ブレーカーを切る前や昼休み等で一時的に浴槽操作部の表示ランプ類を消灯させたい場合は、電源スイッチを長押し（約 2 秒）してください。再度、使用する場合は、電源スイッチを長押ししてください。



参考 浴槽用電源を入れたとき、貯湯タンク内に残り水があると、排水ランプが点滅し、排水します。自動で排水中は、貯湯タンク内に給湯ができません。排水を停止したい場合は、排水スイッチを長押し（約 2 秒）して、排水ランプを消灯させてください。

ご注意 循環タンクが空になったことを確認してから、電源を落としてください。入浴終了後すぐに、専用安全ブレーカーを切ると、貯湯タンクに水が残ります。
排水スイッチを長押しして排水してください。（貯湯タンクの排水時間は約 14 分です）

⚠注意　使用後はブレーカーを切る前に、必ず排水して給湯ランプの消灯を確認してから、電源スイッチを押して、表示ランプ類を消灯する

給湯ランプが点灯している状態で、専用安全ブレーカーを切ると、貯湯タンク内に水が給湯され続けます。給湯ランプが消灯していることを確認してから、電源スイッチを押してください。尚、給湯の自動停止には数秒掛かりますので、電源切後は約 15 秒おいた後に、専用安全ブレーカーを切ってください。

給湯水圧

本機に供給される給湯水圧は、150～200 ㎪(約 1.5～2.0 ㎏/㎠)必要です。また圧力変動のないようにしてください。

給湯水の最大圧力比は圧力変動も含み ２：１または１：２以内にしてください。

⚠警告　適正圧力及び圧力比範囲となるよう管理

適正範囲を外れると、給湯やシャワーの湯温が急変することがあり、入浴者及び介助者がやけどをする恐れがあります。

入浴剤・薬液の使用

✹入浴剤について

入浴剤は液状のものを使用してください。

入浴剤を使用する場合は、入浴剤の使用上の注意をよく読んで、浴槽（FRP）や配管等に悪影響を及ぼすような成分(イオウ等)の入った入浴剤は使用しないでください。

⚠注意　粉末状の入浴剤は使用しない

ご使用になると、溶け残ったものが配管内に付着して故障の原因になる恐れがありますので、入浴剤は液状のものを使用してください。

どうしても粉末状の入浴剤を使用したい場合は、別容器でよく溶かしてから使用してください。ただし、粉末状の入浴剤を使用したことによる故障については、**保証期間内の製品でも保証対象となりませんのでご注意ください。**

✹薬液について

本製品の塩素殺菌装置は、次亜塩素酸ナトリウム(1.5%溶液)専用です。他の薬液を使用したり、他の溶液と混ぜて使用しないでください。

推奨品：㈱オーヤラックス製「ピューラックス(濃度 6%品)」の 4 倍希釈溶液

⚠危険　次亜塩素酸ナトリウムは酸性の製品の近くに置いたり、一緒に用いない

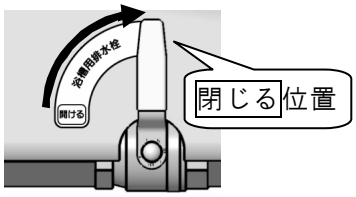
人体に有害な塩素ガス等の発生の恐れがあります。

操作方法(各部)

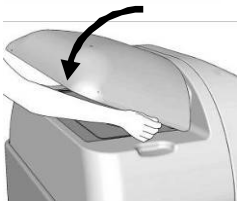
貯湯操作

1 日の入浴準備開始時には貯湯タンク内に残り水がない状態で貯湯タンクへ給湯します。前回の残り水がある場合、電源入時に自動で排水が始まります。自動で排水中は、排水ランプが点滅し、貯湯操作は行えません。排水が完了し、排水ランプが消灯すれば、貯湯操作を行えます。（排水を停止したい場合は、P.27 湯の排水操作を参照してください）

1　浴槽側面下部にある浴槽用排水レバーを閉じる位置にします。

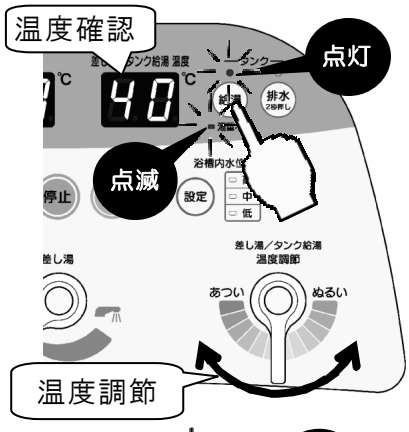


2　循環タンクの蓋、タンクメンテナンスカバーが開いている場合は、閉じます。

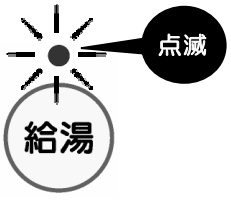


3　給湯スイッチを押して、貯湯タンクに給湯を開始します。給湯中は、給湯ランプが点灯し、湯量不足ランプが点滅して給湯中であることをお知らせします。

4　給湯温度の調節は差し湯/タンク給湯温度表示を確認しながら、給湯ミキシングのレバーで調節します。（適温にして貯湯タンクに貯湯します）



貯湯タンク内に給湯する湯温は 36～47℃に調整してください。範囲外のときは、給湯が自動停止して、給湯ランプが点滅します。



給湯温度が 35℃以下及び 48℃以上のときは、差し湯/タンク給湯温度表示部が点滅します。

5　貯湯タンク内の水位が所定の水位に達すると、給湯は自動停止し、湯量不足ランプが消灯します。

ご注意　電源を入れて最初の給湯は、湯温が安定するまで時間が掛かるため、給湯を開始してから 3 分間は 35℃以下の給湯水を自動的に排水します。（差し湯/タンク給湯温度表示部は点滅しません。排水を停止したい場合は、P.27 湯の排水操作を参照してください）

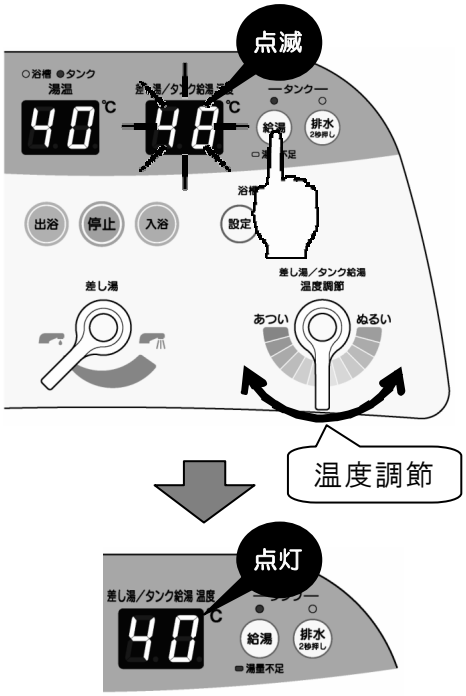
●給湯温度が高温／低温で、給湯が自動停止したときには

1　浴槽操作部の給湯スイッチを押します。

2　給湯温度が適温（36～47℃の範囲）になるように、差し湯/タンク給湯温度表示を確認しながら給湯ミキシングレバーで調節します。

3　給湯温度が適温になると、給湯が自動的に再開されます。差し湯/タンク給湯温度表示部は 36～47℃になると点滅から点灯に変わります。

4　再度、差し湯/タンク給湯温度表示部及び給湯ランプが点滅した場合は、1 の操作からやり直します。



ご注意　給湯スイッチを押したとき、適温範囲外の湯を循環タンク内へ 5 秒間給湯します。高温の場合はやけどの恐れがありますので、循環タンク内にある給湯口には触れないよう、注意してください。

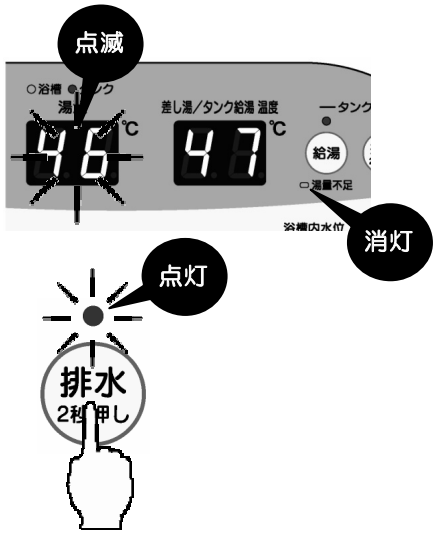
循環タンク内の湯温調節

循環タンクから浴槽へ送湯できる湯温は 36〜45℃です。範囲外のときは入浴スイッチを押しても浴槽内へ送湯できません。

- **循環タンク内が 35℃以下 46℃以上のとき**は循環タンク湯温表示部が点滅し、循環タンク内の湯温が範囲外であることをお知らせます。

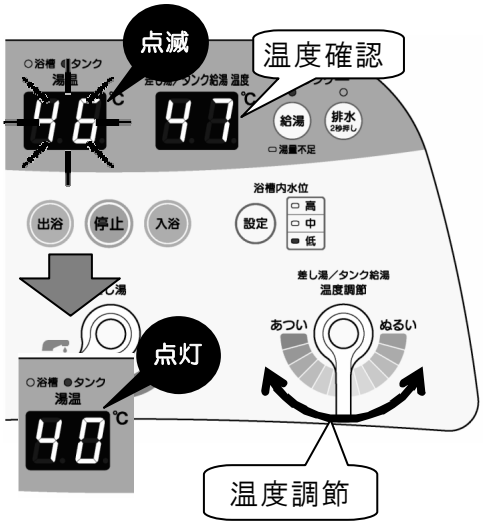
●循環タンク内の湯温度が高温/低温のときには…

1 循環タンク湯温表示部の点滅、湯量不足ランプが消灯しているときは、循環タンク内が満水となっていますので、排水スイッチを長押しして、循環タンク内の湯を排水しから、適温を再給湯してください。



2 循環タンクに給湯中に湯温が46℃以上または35℃以下になった場合は、循環タンク内が適温（36〜45℃の範囲）になるように、給湯温度を給湯ミキシングレバーで調節して給湯します。

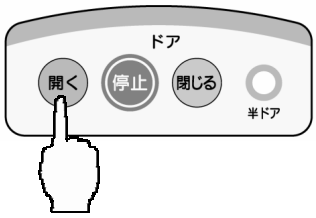
3 循環タンク内が適温になると循環タンク湯温表示部が点滅から点灯に変わります。



ドアの開閉操作

● ドアを開ける

浴槽のフチにあるドア開くスイッチを押します。ドアは自動的に開き、約 90°の位置で止まります。

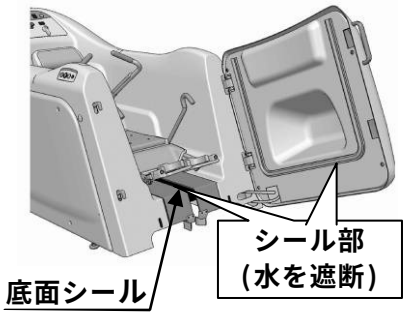


参考　浴槽用電源を ON にした後、約 20 秒間は機器の立ち上げ時間のため、ドアは開きません。

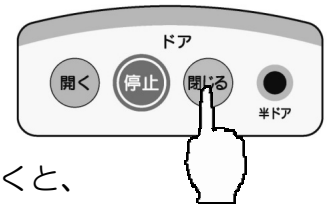
ご注意　浴槽内に湯水がある場合は、ドア開くスイッチを押してもドアは開きません。排水または循環タンクへ湯を戻して、浴槽内が空になったことを確認してからドアを開けてください。

● ドアを閉じる

1　入浴用車椅子を浴槽内に入れ、底面シールが閉じたことを確認します。

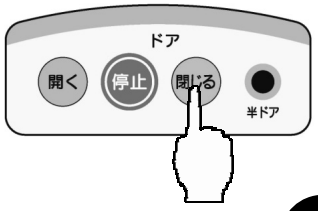


2　ドア閉じるスイッチを押します。

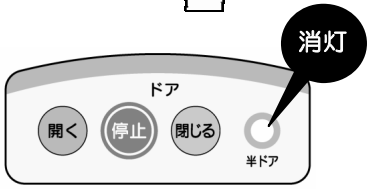


3　ドアの把手を持って軽く閉じ側へ引くと、ドアはゆっくりと閉まります。

4　挟み込み防止のため、中間位置でドアが自動停止しますので、入浴者の足元の安全を確認してから、再度閉じるスイッチを押します。

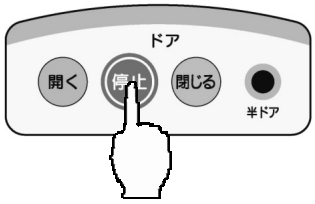


5　ドアが閉まると、ドアロック及びドアシールが作動し、浴槽のフチにある半ドアランプが消え、入浴（浴槽への送湯）が可能となります。



● ドアを停止

ドアを開くときや閉じるときに途中でドアを停止させたい場合は、停止スイッチを押すとドアの自動開閉が停止します。



⚠警告　ドアを開閉するときは周囲を確認し、入浴者の手足に注意

ドアの動作範囲内に人や障害物があると、事故の原因となります。また、足先や手先が挟まれると、けがをする恐れがあります。

❁入浴終了後

1日の入浴作業の終了時は、以下の操作をしてください。浴槽の中へ人が入ったり、シールを傷付けたりすることを防止します。

1　入浴用車椅子を浴槽の外へ退出させます。

2　ドア閉じるスイッチを押し続けながら、ドアを閉めます。

3　ドアは閉じた状態となり、ロックされます。（シールは作動しません）

4　排水スイッチを長押しして、貯湯タンク内の湯を排水してください。（排水中は排水ランプが点灯します）

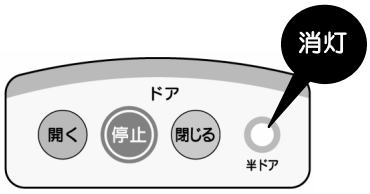
5　循環タンク内の湯が排水されたことを確認してから、電源スイッチを長押しして、表示ランプ類を消灯させてください。

⚠注意　入浴しないときは、ドアシール及び底面シールを作動させない

参考
- 入浴用車椅子が浴槽内にセットされ、シールが閉じた状態で浴槽内に湯がないときに電源スイッチを切った場合、シールを保護するためにドアシールと底面シールは自動で開きます。
- 貯湯タンク内に湯が残っている状態で、電源スイッチを切った場合、再度電源スイッチを入れた際に、排水ランプが点滅し、貯湯タンク内の排水を自動的に行います。昼休みなどで入浴作業を休止し、貯湯タンク内の湯を再度使用したい場合は、排水ランプ点滅中に排水スイッチを長押しして、排水ランプを消灯させてください。入浴を再開する場合は、給湯スイッチを押し、貯湯タンクを満水にしてください。

浴槽 ⇔ 貯湯タンク間の送湯

✹ 貯湯タンク → 浴槽

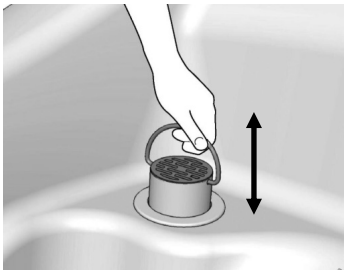


1　入浴用車椅子を浴槽内に入れ、ドアを閉じると半ドアランプが消えます。

ご注意
- 半ドアランプが点灯している間は、ドアや底面のシールが閉じていないため、貯湯タンクから浴槽へ送湯されません。
- 電源を入れてから最初の入浴では、湯量不足ランプが点灯していると送湯されません。2 人目以降は、湯量不足ランプの点灯/消灯に関係なく送湯できます。

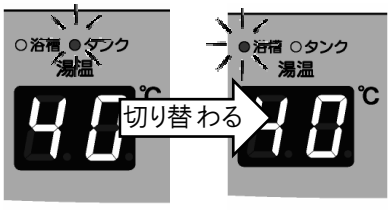
2　浴槽内水位設定スイッチを押して、『高』『中』『低』のいずれかに設定します。

参考
- 毎回の入浴が終わり、出浴スイッチを押すと、設定は安全のため、自動的に『低』に戻ります。
- 浴槽内への送湯中は、浴槽内水位を変更できません。停止スイッチを押して、浴槽内への送湯を停止させた後に水位を変更してください。

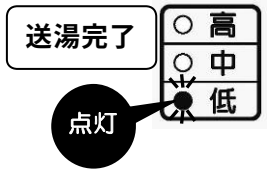


3　入浴者の身長及び入浴姿勢に合わせ、水位調節式オーバーフローの高さを調節します。

4　入浴スイッチを押すと、貯湯タンクから浴槽内へ送湯が開始します。送湯中は浴槽内水位設定ランプが点滅し、送湯中であることをお知らせします。
浴槽に湯が貯まると、湯温表示部は、上部のランプがタンクから浴槽に点灯が切り替わり、循環タンク内湯温から浴槽内湯温の表示へ切り替わります。



5　浴槽内の水位が所定の位置になる、または、停止スイッチを押すか、循環タンク内湯量が不足になると、浴槽内水位設定ランプが点灯に変わり、送湯は止まります。



警告 ・送湯前に、必ず手と温度表示で循環タンク内の湯温を確認

確認しないで入浴スイッチを押すと、温度センサー等が故障していた場合、高温の湯が止まらないで浴槽に送湯され、入浴者にやけどを負わせる恐れがあります。特に、**午前又は午後の最初の入浴者の場合**は、必ずタンクメンテナンスカバーと循環タンクの蓋を開けて手で湯温を確認してください。

参考 • 循環タンク内の湯が不足して送湯が自動停止した場合、差し湯バルブを回して浴槽に湯を足してください。差し湯については、P.25 差し湯操作を参照してください。

ご注意 • 送湯動作が開始しない場合は、循環タンク内の湯量が不足しているか、循環タンク内の**温度が範囲外**となっています。P.16 貯湯操作または P.18 循環タンク内の湯温調節を参照し、循環タンク内に適温の湯を貯めてください。

• 突然動作が止まった場合は、循環タンク内の湯量が不足しているか、循環タンク内の**温度が範囲外**となっています。

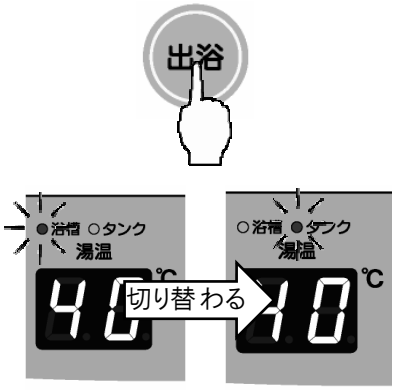
温度が範囲外で停止した場合は、浴槽/タンク湯温表示部が浴槽内湯温とタンク内湯温(点滅)を交互に表示します。

出浴スイッチを押して、循環タンクへ湯を戻し、入浴者を浴槽外へ出してください。その後で、P.16 貯湯操作または P.18 循環タンク内の湯温調節を参照し、循環タンク内に適温の湯を貯めてください。

✸ 浴槽 → 循環タンク

出浴スイッチを押すと浴槽内から循環タンクへ送湯を開始します。

浴槽内の湯が少なくなると、湯温表示部は、上部のランプが浴槽からタンクに点灯が切り替わり、浴槽内湯温から循環タンク内湯温の表示に切り替わります。浴槽内の湯がなくなると送湯は止まります。



警告 ・浴槽→循環タンクに送湯するときは、差し湯を止める

差し湯を高温にしている場合があり、浴槽内の湯が少なくなると入浴者に直接かかり、やけどをする恐れがあります。

参考 **• 浴槽→循環タンクへ送湯中(出浴)に循環タンク内が満水になった場合、浴槽内に湯が残った状態で停止することがあります。これは、循環タンク内に次の入浴に対して必要湯量が確保できているためです。浴槽内の残り湯の排水については、P.27 湯の排水操作を参照してください。**

✹ 送湯の停止

送湯を途中で停止する場合は、停止スイッチを押します。

参考 •浴槽→循環タンクへ送湯中(出浴)に浴槽内の残り湯が排水栓以下の深さになったときに送湯を停止すると、再度出浴スイッチを押しても循環タンクへ湯を戻すことはできません。この場合は、入浴スイッチを押し、排水栓より上に湯面が上昇したら停止スイッチを押し、その後出浴操作をしてお湯をすべて循環タンクへ戻してください。

✹ 貯湯タンク→浴槽へ送湯中(入浴)に停止し、入浴者を浴槽外に出す場合

■ 浴槽の排水栓の深さ以上に湯があるとき…

循環タンクへ送湯しないとドアを開くことはできません。出浴スイッチを押し、浴槽内の湯を循環タンクに送湯してからドアを開けて入浴者を浴槽外に出してください。

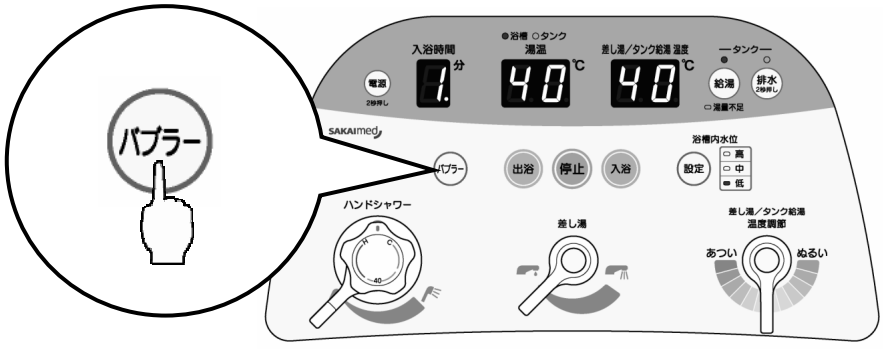
■ 浴槽の排水栓の深さまで湯がないとき…

循環タンクへ送湯しなくてもドアは開きます。ドアを開けて入浴者を浴槽外に出してください。

⚠注意　ドアを開けるとき、流れ出る湯に注意

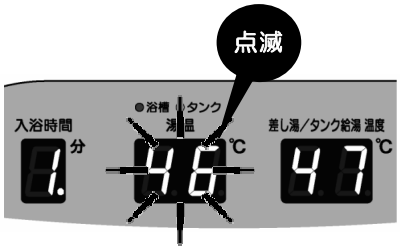
バブラー操作

浴槽操作部のバブラースイッチを押すと、浴槽の底面から気泡が発生し、気泡浴として入浴できます。停止するときは、再度バブラースイッチを押してください。浴槽内に湯が無い状態でバブラーを使用すると配管内に残った湯が飛び散るので、注意してください。



浴槽内湯温表示

差し湯などで浴槽内の湯温が 46℃以上になると、浴槽湯温表示部が点滅してお知らせします。入浴者の様子に注意して、適時湯温を調節してください（差し湯の湯温調整は給湯ミキシングで行ってください。P.25 差し湯操作を参照してください）



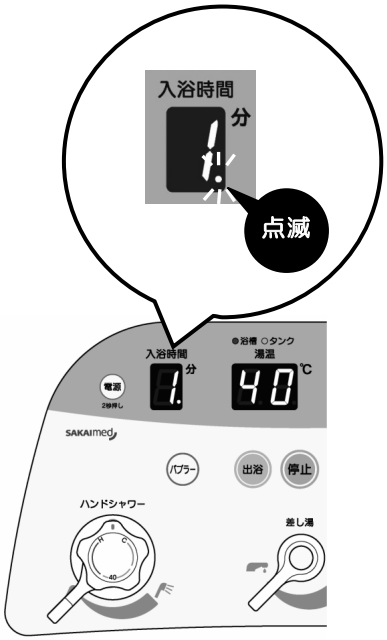
入浴時間

浴槽操作部に入浴時間計があります。入浴スイッチを押して、送湯が始まると、入浴時間の計測が開始されます。（時間計右下の点が点滅します）

0～9 分までは 1 分毎に表示し、10 分以上は、9. の点滅になります。

出浴スイッチを押して、湯が浴槽から循環タンクに戻ると計測が停止します。

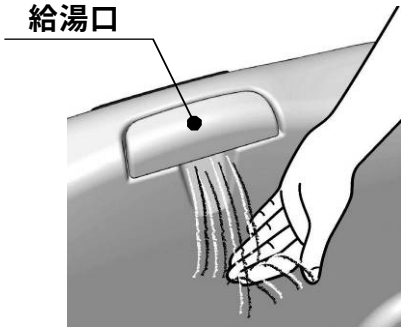
ドアが開くとリセットされ、表示が 0 に戻ります。

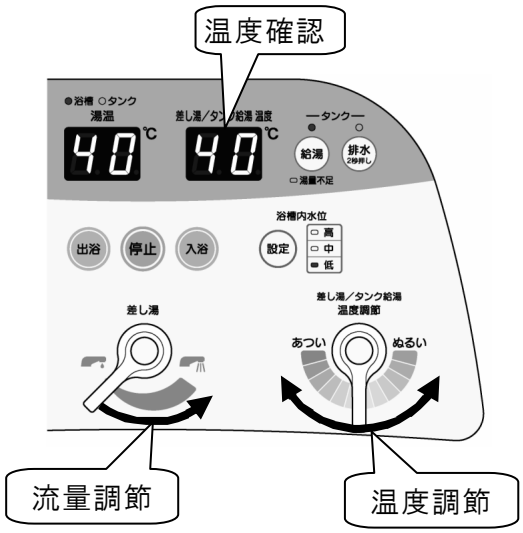


参考 循環タンクに湯を戻し、計測を停止させた状態においても、ドアを開けずに再度入浴スイッチを押すと、計測が継続されます。

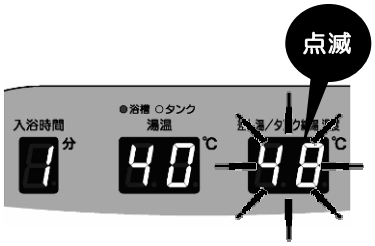
差し湯操作

浴槽内の湯温の低下を防止や、オーバーフローから垢や汚れを流し出すために差し湯を行うことができます。差し湯の流量調節は、差し湯バルブを回して行ない、温度調節は給湯ミキシングのレバーで行います。





差し湯が 48℃以上のときは給湯温度表示部が点滅し、差し湯が高温であることをお知らせします。
給湯ミキシングのレバーで温度調節してください。
給湯中のときは･･･P.16 貯湯操作と同様に給湯ランプが点滅して給湯が停止しますので、P.16 貯湯操作を参照してください



⚠警告　差し湯をするときは、給湯温度計と手で湯温を確認

熱いと、やけどをする恐れがあります。また湯の出し始めや温度設定をした後は温度が安定していない場合があるので、しばらく湯を流して、温度を確認してください。

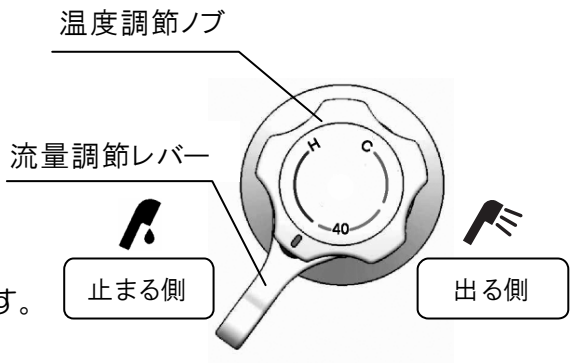
⚠注意　差し湯が終わった後は、必ず給湯ミキシングを適温に戻す

シャワー操作

- シャワーの流量・湯温調整

1　流量調節レバーで、シャワーの開閉及び流量調節を行います。

⚠ 注意　流量調節レバーはゆっくり回す

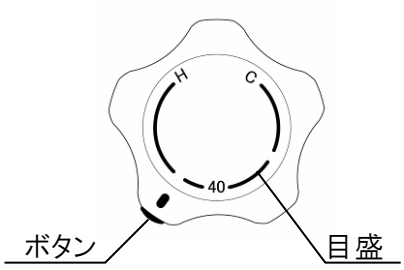


シャワーミキシング

2　温度調節ノブで、シャワーの温度調節を行います。温度調節ノブをHの方に回すと温度が上がり、Cの方に回すと温度が下がります。

3　温度調節ノブには、誤って熱湯を出さないようにボタンが付いています。（温度調節ノブをHの方に回すと、目盛“40”付近で停止します）

高温のお湯を出す場合には、ボタンを押したまま温度調節ノブを回すことにより使用できますが、やけどの恐れがあるため、通常はノブの停止位置より温度の低い範囲でご使用ください。



温度調節ノブ

⚠ 警告　・シャワーを入浴者にかける前だけでなく使用中も絶えず手で温度を確認

熱い湯が配管内に溜まっている場合がありますので、確認する前に安全な所に吐水して、最初の湯は捨ててください。

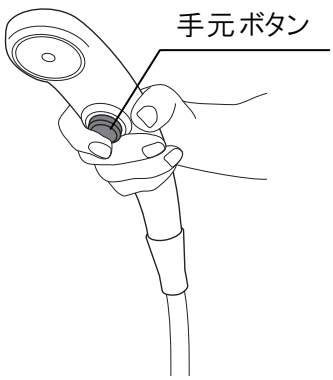
・高温でお湯を使用した後は、必ず温度調節ノブを適温に戻す

・温度調節ノブは、ゆっくり回す

・シャワーをかけたままにして入浴者から離れない

4　ハンドシャワーは、手元ボタンを押すごとにシャワーのON/OFFを切り換えることができます。

但し、手元ボタンのため、締め切りが不十分になる場合があります。



⚠ 注意　使用後は流量調節レバーで湯を止めてから、シャワーホース内の加圧水をすてる

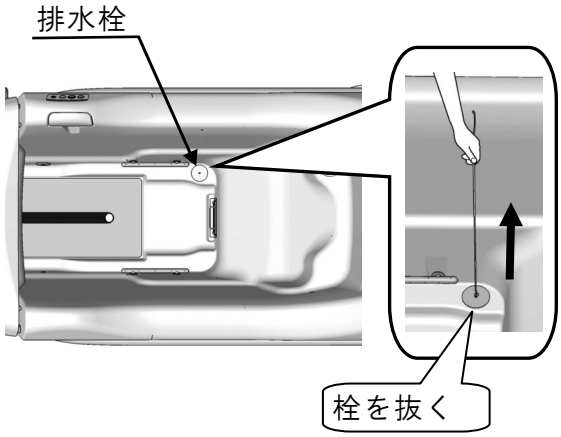
ご注意　ハンドシャワーの手元ボタンは、一時停止用です。シャワーを使用しないときは、必ず流量調節レバーを止まる側のマークの位置に戻してください。手元ボタンの故障の原因となります。

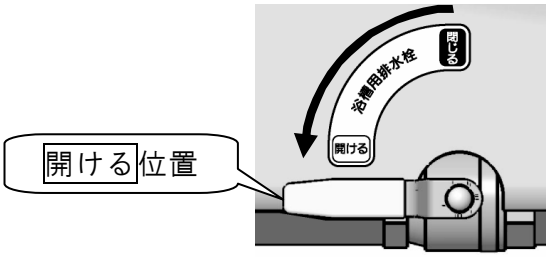
湯の排水操作

✸ 浴槽内の湯の排水

浴槽内の湯を排水する場合は、浴槽の排水栓を抜き、浴槽用排水バルブのレバーを開ける位置に回します。

排水が終わったら、浴槽用排水バルブのレバーを閉じる位置に回し、ドア開くスイッチを押してドアを開き、底面シールを解除してください。



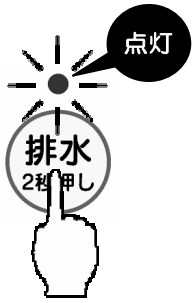


✸ 貯湯タンク内の湯の排水

貯湯タンク内の湯を排水する場合は、排水ボタンを長押し（約 2 秒）します。排水ランプが点灯し、排水が開始されます。

排水の完了は循環タンク蓋を開けて確認してください。

排水を途中でやめたい場合は、もう一度排水ボタンを長押しすると、排水ランプが消灯し、排水が停止します。



参考

- 入浴中に排水ボタンを押しても排水できません。浴槽内の湯がなくなり、底面シールが開いてから押してください。
- 前回使用時の残り水が貯湯タンク内にある場合、電源入時に自動で排水が始まります。自動で排水中は、排水ランプが点滅します。排水が完了すると、排水ランプは消灯します。排水を停止したい場合は、排水ボタンを長押しすると、排水ランプが消灯し、排水が停止します。
- 電源を入れて最初の給湯は、湯温が安定するまで時間が掛かるため、給湯を開始してから 3 分間は 35℃以下の給湯水を自動的に排水します。排水を停止したい場合は、排水ボタンを長押しすると、排水ランプが消灯し、排水が停止します。

塩素殺菌装置の操作

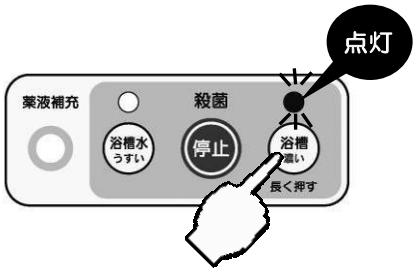
本製品内蔵の塩素殺菌装置は、**浴槽**の殺菌と**浴槽水(お湯)**の殺菌を行うことができます。

・浴 槽 殺 菌:浴槽内湯量に対して約 1ppm 分の量の薬液を循環タンク内に吐出し、浴槽と循環タンク及び入浴用車椅子の殺菌を行うものです。
毎日の入浴作業終了後に行うことをお奨めします。

・浴槽水殺菌：浴槽内実使用湯量に対して約 0.6ppm 分の量の薬液を循環タンク内に吐出し、浴槽水(お湯)の殺菌を行うものです。昼休み時間（菌の増殖を抑える）や、失禁等による湯の入れ替え後に行ってください。

✸ 浴槽殺菌の操作

1 浴槽操作部の湯量不足ランプが消灯していることを確認してください。湯量不足ランプが点灯している状態では浴槽殺菌が実施できません。湯量不足ランプが点灯していたら、給湯スイッチを押し、貯湯タンクに給湯してください。

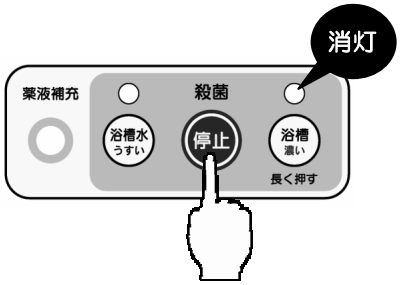


2 空の入浴用車椅子を通常の入浴と同じように浴槽にセットしてドアを閉めます。

3 浴槽側面の殺菌操作部の浴槽濃いスイッチを上部の表示ランプが点灯するまで長押し(約 4 秒)すると、浴槽殺菌システムが作動し浴槽の殺菌を開始します。

浴槽殺菌は… 「循環タンク内に薬液の吐出」→「浴槽への送湯」→「バブラーによる攪拌(２回)」→「循環タンクへの送湯」→「循環タンク内自動排水」→「循環タンク内簡易洗浄」→「ドア及び底面シールの解除」の工程が自動で行われます。

4 浴槽の殺菌が終了すると、浴槽濃いスイッチ上部の表示ランプが消灯します。
（浴槽殺菌の所要時間は、約 22 分です）
浴槽殺菌を途中で停止したい場合には、浴槽側面の殺菌操作部の停止スイッチを押してください。停止後、再度浴槽濃いスイッチを長押しすると、浴槽殺菌の停止した時点の工程から始まります。



5 浴槽殺菌の全工程終了後、ドアを開けて浴槽内の入浴用車椅子を取り出してください。循環タンク内の湯が排水されたことを確認して、電源スイッチを長押しして、表示ランプ類を消灯させてください。

参考　浴槽殺菌は、48℃以上の湯では実施することはできませんが、35℃以下の湯では実施することができます。

ご注意
- 浴槽殺菌工程中は、タンクメンテナンスカバーおよび循環タンク蓋を開けないでください。

- 浴槽殺菌の「浴槽への送湯」または「循環タンクへの送湯」の工程中に浴槽操作部の停止スイッチを押した場合には、送湯工程終了後に停止します。

- 浴槽殺菌工程中に給湯ミキシングを 48℃以上にすると、循環タンクへの給湯が停止します。このようなときは、P.16 貯湯操作を参照し、給湯温度を適温にしてください。

- 浴槽殺菌を途中で終了するとき
  〈工程が「浴槽への送湯」の前の場合〉
  停止スイッチを押した後、排水スイッチを押して貯湯タンク内の湯を排水してください。
  〈工程が「浴槽への送湯」の後の場合〉
  停止スイッチを押した後、排水栓と浴槽用排水バルブで浴槽内の湯を排水し、排水スイッチで貯湯タンク内の湯を排水してください。(浴槽内の湯が残っている場合は排水ボタンが押せません)

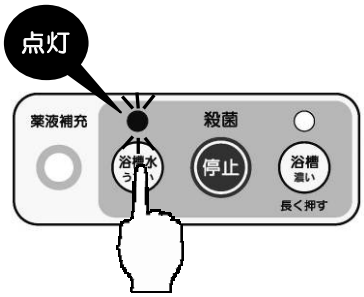
- 浴槽殺菌工程中及び終了後は、入浴操作及び浴槽水殺菌は行えません。入浴操作及び浴槽水殺菌を行う場合は、浴槽内と貯湯タンク内の湯を全て排水して、再度貯湯タンクへ給湯し直してください。

- 浴槽殺菌工程中の「循環タンク内洗浄」は、簡易洗浄です。1 週間に一度は、循環タンク内の洗浄を実施してください。

〔P.42　清掃　参照〕

✹ 浴槽水殺菌の操作

1 浴槽操作部の湯量不足ランプが消灯していることを確認してください。湯量不足ランプが点灯している状態では浴槽水殺菌が実施できません。湯量不足ランプが点灯していたら、給湯スイッチを押し、貯湯タンクに給湯してください。



2 浴槽側面の殺菌操作部の浴槽水うすいスイッチを押すと、上部の表示ランプが点灯して薬液が循環タンク内に吐出されます。

3 薬液は約 4 分間吐出されます。吐出後、通常通りの入浴作業を行うことができます。

4 浴槽水うすいスイッチ上部の表示ランプは浴槽水殺菌開始から約 2 時間後に消灯します。再度浴槽水殺菌を行う場合は、このランプが消灯したことを確認してから行ってください。

薬液の濃度が必要以上に濃くなることを防止するため、浴槽水うすいスイッチ上部の表示ランプが点灯している間は浴槽水殺菌システムが作動しないようになっています。

参考
- 浴槽水殺菌開始後、約 4 分間は殺菌操作部の停止スイッチを押すと浴槽水殺菌を停止することができます。
- 浴槽水殺菌開始から約 2 時間以内でも、浴槽と貯湯タンク内の湯を排水しますと、再度浴槽水うすいスイッチを押して浴槽水殺菌を行うことができます。（失禁等により湯の入れ替えをした場合など）
- 浴槽水殺菌中に、浴槽殺菌を行うことができます。

〔P.28　塩素殺菌装置の操作　参照〕

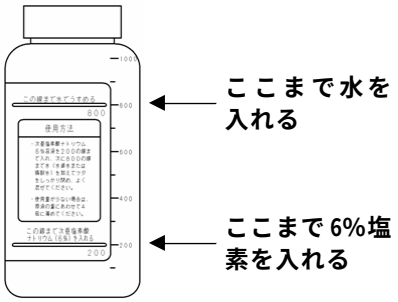
参考　「公衆浴場における衛生等管理要領について」（抜粋）
厚生省（現厚生労働省）通達（生衛発第 1811 号、H12.12.15）

適用の範囲：公衆浴場及び浴場業
・浴槽の清掃は毎日、消毒は月一回以上行うこと。ろ過装置付きの場合は、ろ過部の消毒及び逆洗を週一回以上行うこと。
・浴槽水の消毒に用いる塩素系薬剤の濃度は、遊離残留塩素濃度を 1 日 2 時間以上 0.2～0.4 mg/ℓ(ppm)に保つことが望ましい。

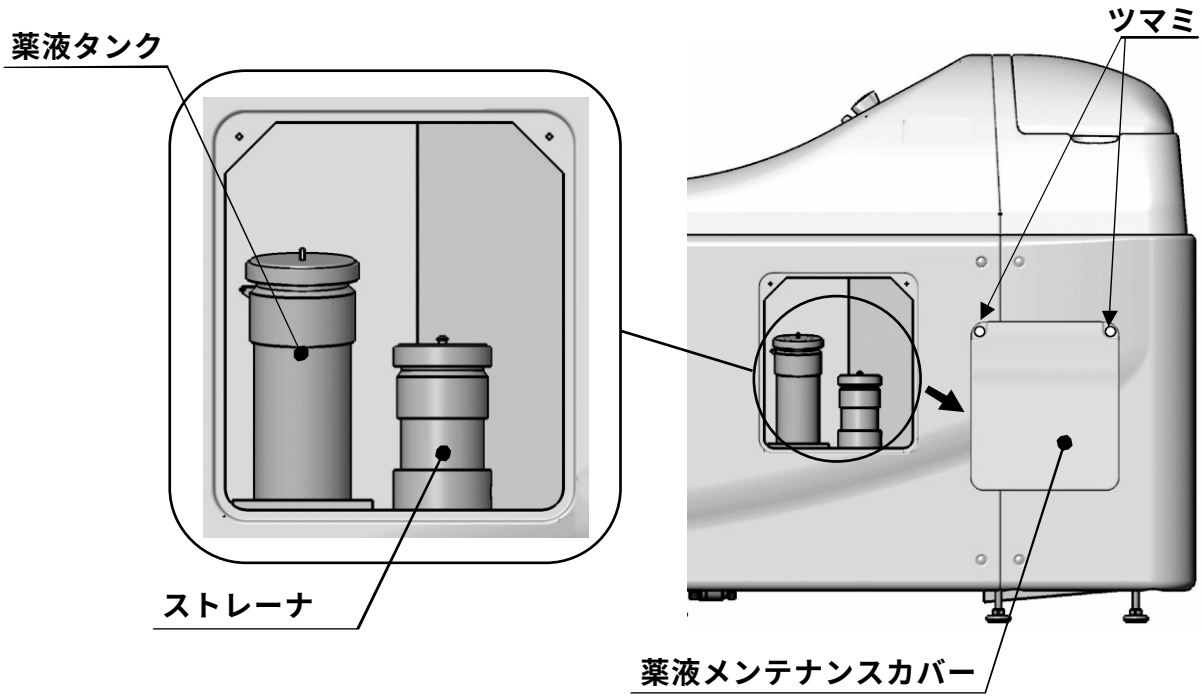
✹ 薬液の補充

薬液が少なくなると、浴槽側面の殺菌操作部の薬液補充ランプが点灯します。点灯した場合は、速やかに薬液を補充してください。

補充の際は、P.32 の「薬液取扱いの注意」に従って充分注意し、次の手順で行ってください。



1　浴槽用元電源を切ります。
2　補充薬液を作ります。市販の **6%次亜塩素酸ナトリウム**溶液を付属の希釈ボトルの 200 の線まで入れ、水道水または精製水を 800 の線まで加えて 4 倍に希釈し **1.5%溶液**を作ります。
3　薬液メンテナンスカバーのツマミを左に回して、カバーを開けます。
4　薬液タンクの蓋を左に回して開けます。
5　2 で希釈した薬液をこぼさないように薬液タンクに入れます。
6　薬液タンクの蓋を右に回して閉めます。
7　薬液メンテナンスカバーを下側から差し込み、ツマミを右に回して閉めます。



参考　薬液タンクの容量は、薬液補充ランプが点灯してから補充する場合は 800cc 入る容量になっています。

⚠ 警告　・薬液補充の際は注意する

・十分に換気を行い、保護具（ゴム手袋）を着用してください。
・周囲に薬液がこぼれた場合は水でよく洗い流してください。床やフレーム等の変色や錆の原因となります。
・薬液を付属の希釈ボトルで作った後はすぐに補充し、作り置きはしないでください。
・希釈した薬液は、1 回毎に使い切ってください。
・空になった容器は、よく洗い流して処理してください。

・補充薬液は濃度を 1.5%に希釈したものを使用する

・使用期限内のものを使用する

ご注意　薬液タンク内の薬液も期限が過ぎたら、タンク下のドレンコックを開き、タンク内の薬液を排水して、新しい薬液を補充してください。

薬液取り扱いの注意

薬液は容器に書かれている取り扱いの注意をよく読んでお使いください。

⚠ 危険　酸性の製品の近くに置いたり、一緒に用いたりしない

人体に有害な塩素ガス等が発生する恐れがあります。

⚠ 警告　・誤って薬液を飲んだ場合、応急処置後、医師に相談する

万一飲み込んだときははかせずに多量の水や牛乳を飲ませてください。

・薬液が目に入った場合は、応急処置後、医師に相談する

万一目に入ったときはすぐにきれいな水で 15 分以上洗い流してください。

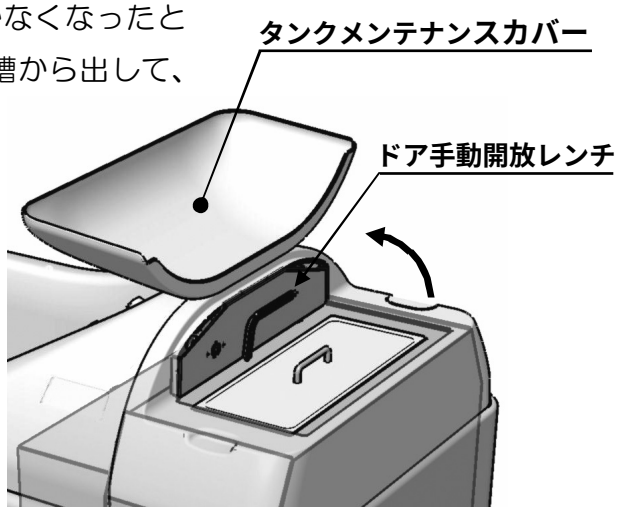
⚠ 警告　・薬液が誤って人体または衣服についた場合は、すぐにきれいな水で洗い流す

・床にこぼした場合はすぐに洗い流す

非常時の操作

✹ ドア手動開放の操作

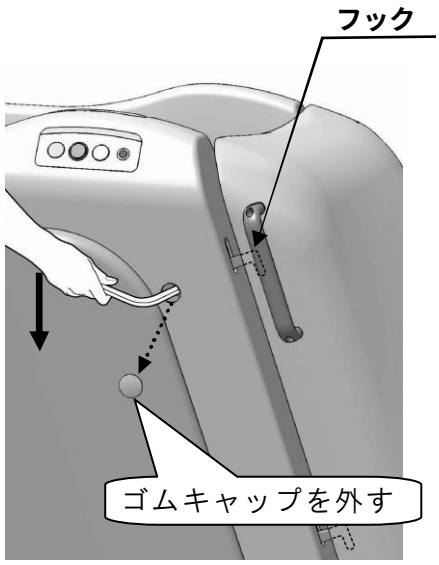
入浴中、停電または故障により装置が動かなくなったときは、次の手順でドアを開放し、入浴者を浴槽から出して、入浴作業を中止してください。



1 排水栓及び浴槽用排水バルブを使用して、浴槽の湯を完全に排水してください。

2 タンクメンテナンスカバーを開けて、ドア手動開放レンチを取り出してください。

3 浴槽フック横のゴムキャップを外し、内部の角穴にレンチをさし込み、下へ力強く押し下げてください。フックが外れます。



4 ドアの把手を持って手前に引いて、ゆっくり開けてください。

⚠警告　非常時はドアフックを解除する前に必ず浴槽内の湯を完全に排水する

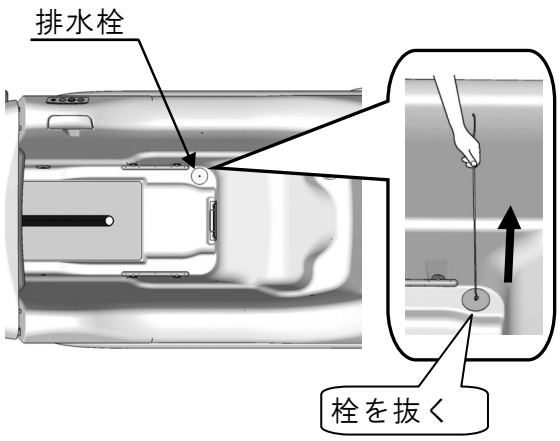
✹ 急速排水

失禁等により浴槽内の湯をすぐに排水したい場合は、次の手順で浴槽内の湯を排水してください。

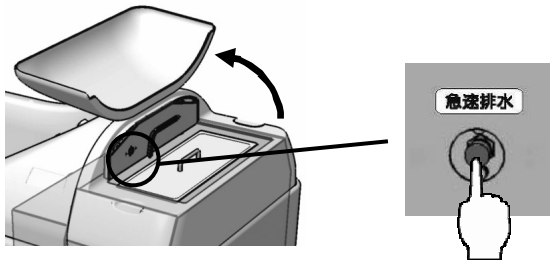
1　浴槽内の排水栓を抜いてください。

2　タンクメンテナンスカバーを開けて、中にある急速排水スイッチを押す。

3　浴槽内の底面シールが少し開き、湯が排水されます。



4　浴槽内の湯を全て排水したら、ドア開くスイッチを押してドアを開け、車椅子を浴槽外に出します。



⚠警告　急速排水するときは、急激な湯の流出に注意

浴槽底面から多量の湯が一度に放出されるので、入浴者の状態や介助者の足元に注意してください。

⚠注意　・排水があふれないように注意

・失禁等の場合、排泄物を取り除いてから排水する

衛生管理上や配管の目詰まり防止のため、湯はタンクに戻さず排水してください。

・急速排水中は入浴者の状態に注意

浴槽内の湯を速く排水させるため、入浴者の気分が悪くなる場合がありますので、入浴者の状態に注意してください。

・急速排水の完了を確認してからドアを開ける

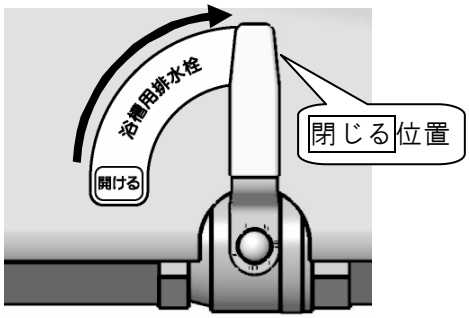
浴槽に湯が残っていると浴室に流れ出し、事故の原因となります。

入出浴手順

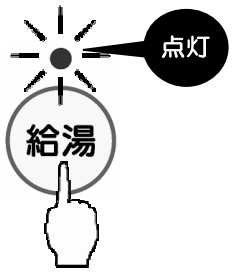
◎ P.16 **操作方法（各部）、別冊入浴用車椅子の操作方法（LA-500C の各部）を参照し、注意事項を守りながら入出浴の操作をしてください。**

1 貯湯タンクへの給湯

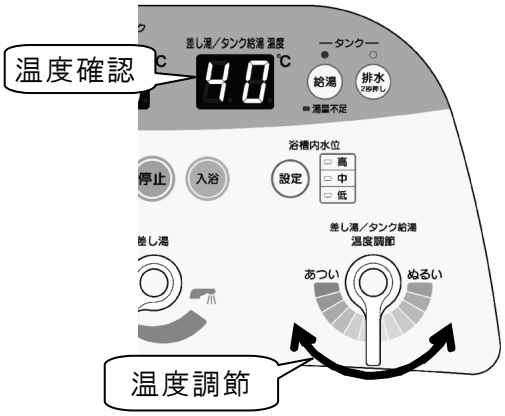
❶ 浴槽用の排水レバーを閉じる位置にする。



❷ 貯湯タンクに給湯を開始します。



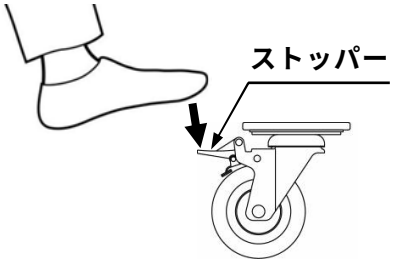
❸ 給湯ミキシングレバーで温度を調節。



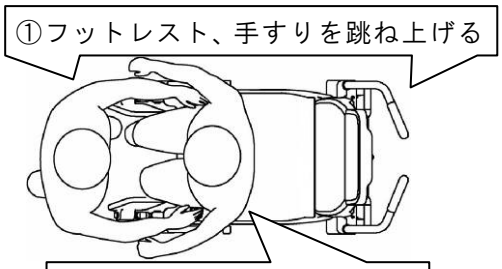
❹ タンク内の水位が所定の位置に達すると、給湯が自動停止。

2 車椅子への移乗

❶
車椅子のキャスターをロック。



❷
車椅子に移乗。

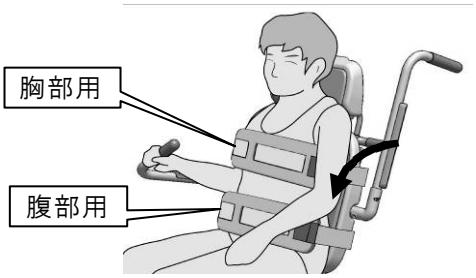


⚠ 警告　車椅子への移乗作業等は落下・転倒に注意

❸
フットレストに足を乗せる。

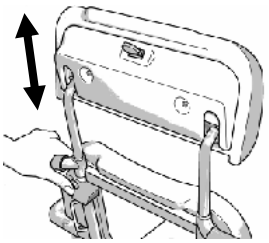
⚠ 警告　入浴者をフットレストの上に立たせない

❹
安全ベルトを着用し、手すりを握らせる。



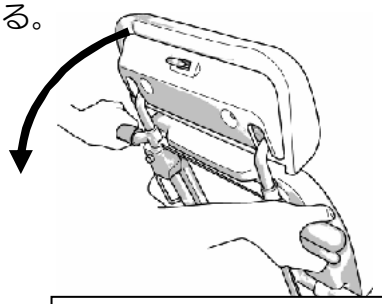
⚠ 警告　車椅子に乗せたら安全ベルトを必ず使用する

❺
枕の高さを調節する。



入浴車椅子の操作方法参照

❻
必要により背当をリクライニングさせる。

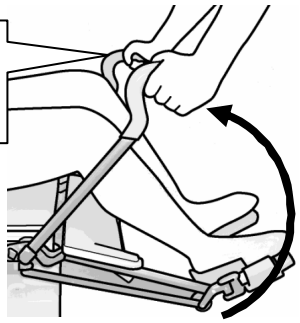


入浴車椅子の操作方法参照

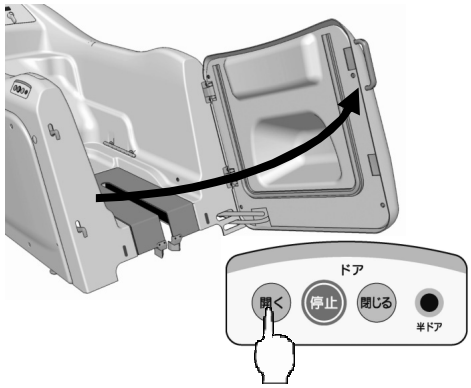
3 浴槽への進入

❶ フットレストを持ち上げる。

浴槽内進退用ハンドルを使用します。

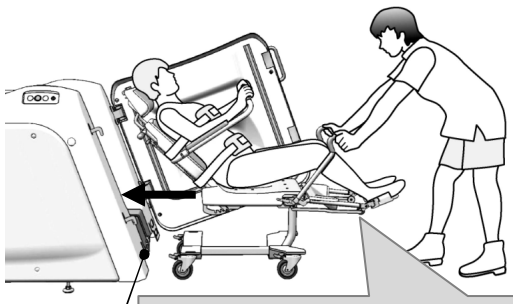


❷ ドアを開く。



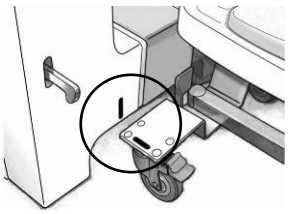
❸ 浴槽内へ進入。

車椅子を背部から浴槽へ進入させます。



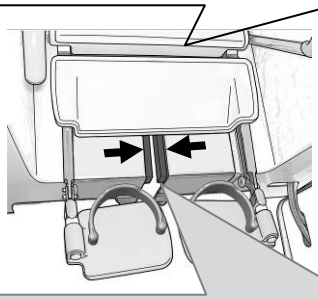
⚠警告　足元の脱落に注意

車椅子と浴槽の青マークを合わせる



❹ 自動的に底面が作動し車椅子を固定。

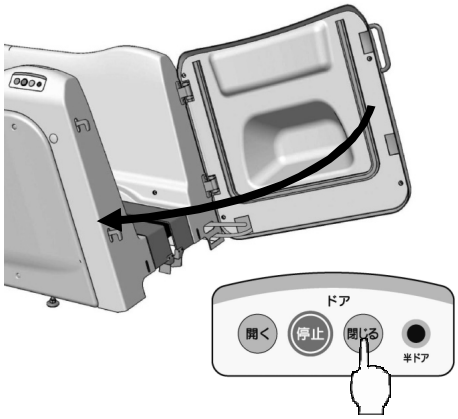
車椅子を所定の位置まで押し込むと自動的に底面シールが作動します。



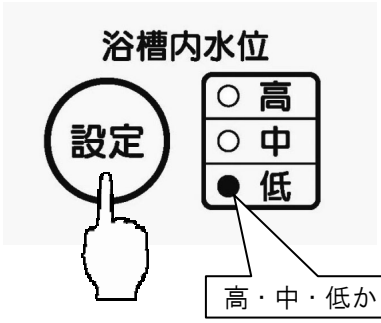
⚠警告　底面シールへの足の挟み込みに注意

4 入浴

❶ ドアを閉じる。

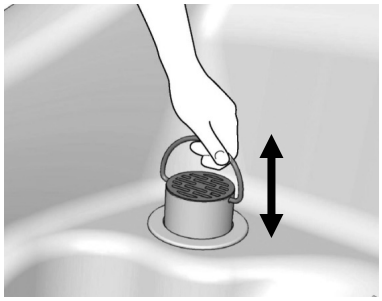


❷ 浴槽内水位を設定する。



高・中・低から選択

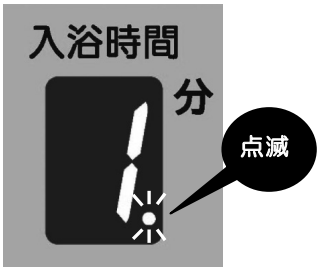
❸ 水位調節式オーバーフローを調節する。



❹ 浴槽内へ湯を送湯。

貯湯タンクから浴槽へ送湯されます。

❺ 入浴時間カウント開始。



入浴スイッチを押して、送湯が開始したとき、入浴時間計が計測を始めます。

❻ バブラーを使用する場合は、バブラースイッチを押す。

⚠警告　入浴中は入浴者を常に看視

5 出浴

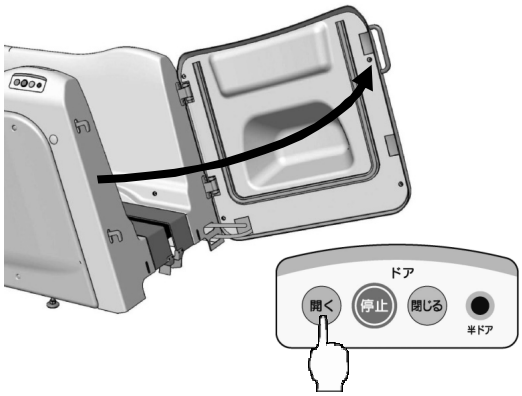
❶

循環タンクへ浴槽内の湯を戻す。

浴槽から循環タンクへ湯が戻ります。

❷

ドアを開く。

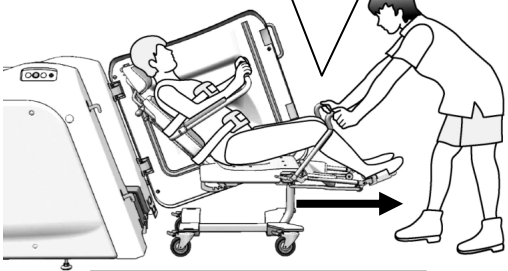


6 入浴用車椅子の退出

❶

車椅子を引き出す。

浴槽内進退用ハンドルを持つ。



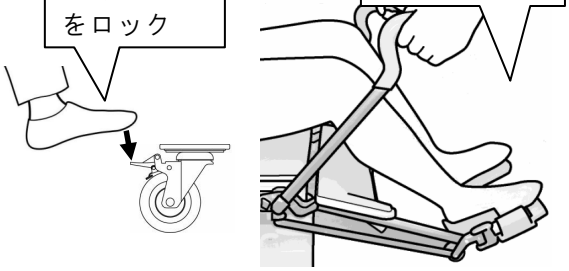
入浴者の足元に注意。

❷

安全な場所に移動。

キャスターをロック

フットレストを下ろす



車椅子を浴槽から離れた位置に停止させます。

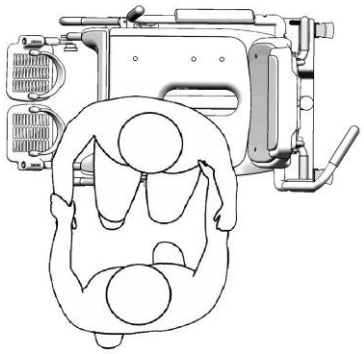
❸

シャワーかけ、清拭作業

⚠警告　必ず手で湯温を確認

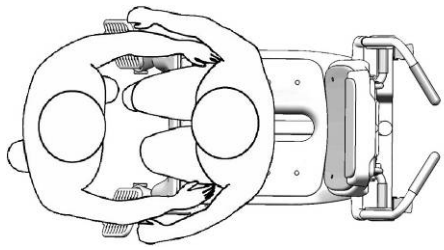
7 入浴用車椅子からの移乗

A．サイド（左または右側）から入浴者を降ろす場合。



手すりを跳ね上げて、入浴者の足をサイド（左または右）へ回し、介助しながら立ち上がらせます。

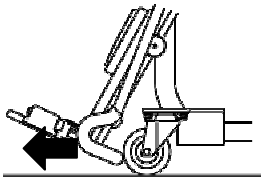
B．前方から入浴者を降ろす場合。



フットレストを外側へ跳ね上げて、前方から介助しながら立ち上がらせます。

ご注意

移乗の際、車椅子後部が浮き上がることがありますので注意してください。前輪２輪のキャスターがフットレストに近づくようにキャスターの首を振らせると安定性が増します。



警告　・入浴者をフットレストの上に立たせない

車椅子後部が持ち上がり非常に危険です。

・車椅子を移動するときは、浴室の排水溝蓋の隙間等に注意

キャスターが隙間等に挟まると、車椅子が傾いたり、転倒する恐れがあります。

入浴終了後の操作

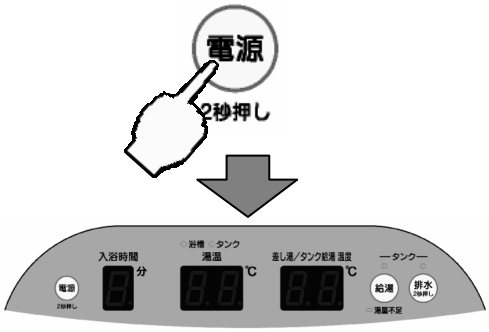
１日の入浴作業が終了したときや、昼休みのため入浴作業を休止するときは、以下の操作をしてください。

·浴槽及び入浴用車椅子を殺菌する場合は、塩素殺菌装置を使い、実施してください。
〔P.28　塩素殺菌装置の操作　参照〕
·浴槽内を洗浄してください。〔P.42　清掃　参照〕

1　浴槽の中へ人が入ったりシールを傷付けたりすることを防止するために、ドアを閉めてください。〔P.20 ドアの開閉操作「入浴終了後」 参照〕

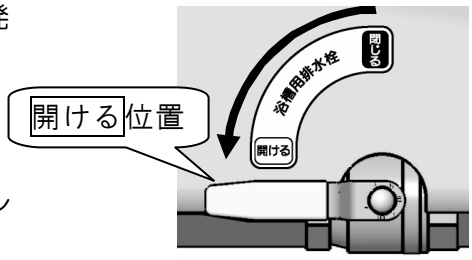
2　排水スイッチを長押しして、貯湯タンク内の湯を排水します。
（貯湯タンクの排水時間は約 14 分です。）

3　循環タンク内が空になったことを確認し、電源スイッチを長押しして電源を切り、表示類が消えたことを確認します。



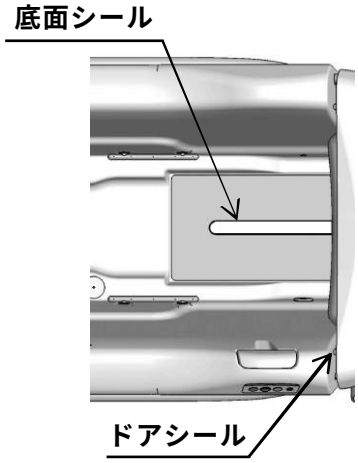
4　浴室の窓を開けるなどして、十分に換気をします。浴室の湿度を下げて、湿気による錆やカビなどの発生を抑えます。

5　浴槽側面の浴槽用排水レバーを開けるの位置に回して、配管内の湯を排水します。



6　底面シール及びドアシールが開いていることを確認します。

7　配電盤内にある専用安全ブレーカーを切ってください。



⚠注意　配電盤内にある専用安全ブレーカーを切る前に、必ず表示ランプ類が消えていることを確認する

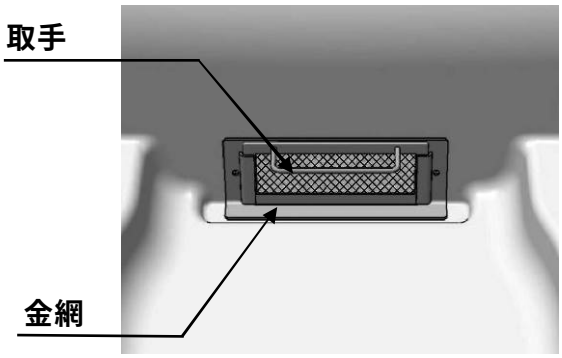
日常のお手入れ

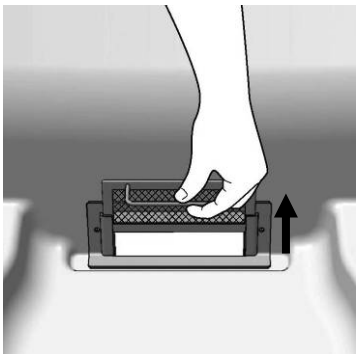
清掃

- 1日の入浴作業終了後は、浴槽内をきれいに洗浄してください。
- ホースやシャワー等で洗浄するのは、浴槽内側だけにしてください。外側、特に操作部や浴槽カバーの合わせ目には水をかけないでください。
  浴室床面を洗う際には水が内部の部品にかからないように注意してください。
- 操作スイッチは雑巾等で軽く拭く程度にしてください。
- 本浴槽は FRP 製です。たわし等で擦ると傷がつきますのでスポンジ等の柔らかいもので洗浄してください。洗浄後は雑巾で軽く拭き取ってください。また、循環タンク内側は柄付きスポンジ等の柔らかいもので洗浄してください。
- 洗剤は市販の浴槽用中性洗剤をご使用ください。
- ステンレス部は水滴をそのままにしておくと水垢が残り汚くなります。乾いた布で水滴をきれいに拭きとってください。

✸ 送湯口の金網の清掃

浴槽内の送湯口についている金網は、取っ手を持ち上げると外すことができます。金網を外し、引っ掛かった毛髪やごみ等は取り除いてください。
清掃後は、取り外した金網は必ず送湯口に差し込んでください。

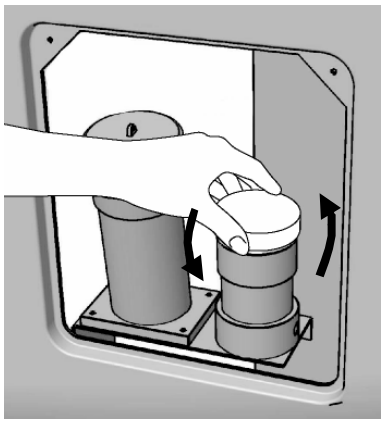




✹ ストレーナの清掃

循環タンク内の湯をより清潔に保つために、ストレーナがついています。入浴作業終了後には、必ずストレーナを清掃してください。

1 循環タンク内に湯が入っていないことを確認してください。湯が入っている場合は排水して、循環タンク内を空にしてください。



ご注意 循環タンクに湯が半分以上入っている状態では、湯が溢れ出るのでストレーナを取り外さないでください。

2 薬液メンテナンスカバーのツマミを左に回して、カバーを開けます。（P.31 参照）

3 ストレーナのキャップを左に回し、上に引き上げます。

4 ストレーナ部をブラシなどでよく洗浄してください。

⚠注意 ・ストレーナを取り扱う際には、金網で手指を傷付けないように注意
・ストレーナを元に戻したときは、キャップをしっかり閉める

✹ グリースアップ

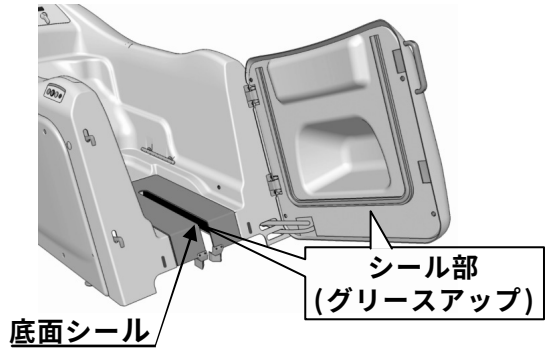
底面シール（上面・側面・先端）及びドアシール表面（特に中央突起部）には、週に１度、シリコングリス（信越シリコン G501：付属品）を塗布してください。塗布する際には、以下の点に気をつけてください。

◆シリコングリスを塗布する際には、必ず付属のハケを使用してください。硬い物で塗布すると、シールを傷付けてしまうことがあります。

◆ごみ等が付着している場合には、布等で拭き取ってから塗布してください。

◆底面シール上面及び先端に塗布するとき

浴槽内に入浴用車椅子を進入させ、底面シールが入浴用車椅子の支柱を挟んで固定したのを確認してから、薄く塗布してください。シールは自動で動くため、指やハケを挟まないよう注意してください。



◆底面シール側面に塗布するとき

入浴用車椅子を浴槽の外に出して、底面シールが完全に開いていることを確認してから、薄く塗布してください。

メンテナンス

- 本浴槽は油圧駆動方式を採用しています。オイルタンク内にごみや水分が混入すると故障の原因となりますので、2 年に一度作動油の交換が必要です。
（弊社サービスマンにご用命ください）

このようなときには

症　　状	原　　因	対　　策
貯湯タンクに給湯されない。または差し湯/タンク給湯温度表示部、給湯ランプが点滅している。	電源が入っていない。(自動給湯時)	電源を入れてください。
	給湯温度が 48℃以上または 35℃以下になっている。 (安全装置が作動している)	給湯スイッチを押して、給湯ミキシングを適温(給湯温度 36℃～47℃)の位置に調節してください。
	給湯水配管のトラブル	最寄りの営業所にご連絡ください。
貯湯タンクが満水にもかかわらず、湯量不足ランプが点灯している。	貯湯タンク内水位センサーの故障	最寄りの営業所にご連絡ください。
自動給湯が停止しない。	貯湯タンク内水位センサーの故障	最寄りの営業所にご連絡ください。
	停電している。	給湯水配管の元バルブを閉めてください。
	自動給湯開閉弁のトラブル	給湯水配管の元バルブを閉めた後、最寄りの営業所にご連絡ください。
入浴スイッチを押しても送湯されない。または送湯が途中で止まってしまった。	電源が入っていない。	電源を入れてください。
	循環タンクの湯量が不足している。	出浴後、循環タンクに給湯してください。
	循環タンク内湯温が 46℃以上または 35℃以下になっている。(安全装置が作動している)	循環タンク内湯温を 36℃～45℃にしてください。
	ポンプのトラブルか電気系統のトラブル	最寄りの営業所にご連絡ください。
出浴中に、浴槽内に湯が残ってしまった。	循環タンク内に次の入浴で必要な湯量が確保できたため。	浴槽の自動排水は開始しています。浴槽手動排水バルブを開けば更に早く排水できます。
排水ボタンを押しても排水されない。	入浴中に排水ボタンを押しても排水できないため。	浴槽内の湯がなくなり、底面シールが開いてから排水ボタンを押してください。
排水に時間がかかる。	浴槽送湯口にガーゼ、タオル等が詰まっている。	送湯口に詰まっているものを取り除いてください。
送湯時に異音がする。	ポンプのトラブル	最寄りの営業所にご連絡ください。
給湯温度が一定しない。	ストレーナの目詰まり	最寄りの営業所にご連絡ください。
	圧力調整弁のトラブル	最寄りの営業所にご連絡ください。
	圧力比が適正範囲外	圧力比を適正値に調節してください。 P.14 参照
	他の設備で大量に使用している。	・使用時間の調整 ・給湯器の能力アップ

症　　状	原　　因	対　　策
給湯温度が低すぎる。または高すぎる。	ミキシング調節不良	ミキシングを再調節してください。
	給湯水の圧力比が適正範囲外	圧力比を適正値に調節してください。 P.14 参照
温度表示がE0、E1を点滅表示している。	温度センサーの故障	最寄りの営業所にご連絡ください。
温度表示が E2 を点滅表示している。	貯湯タンク内水位センサーの故障か、自動給湯開閉弁の故障またはタンク自動排水開閉弁の故障。	最寄りの営業所にご連絡ください。
温度表示がE3、E4を点滅表示している。	循環タンク内または浴槽内水位センサーの故障。	最寄りの営業所にご連絡ください。

・その他、ご不明な点につきましては最寄りの営業所にご相談ください。
・ご使用中万一故障が発生したら、ただちに入浴者を安全な場所に退避させた後、使用を中止して最寄りの営業所へご連絡ください。

機器の保守・点検について

・本製品をご使用する際は、機器の管理者の方が下記の点検項目に基づき、必ず始業点検（日常点検）を実施してください。

・長期間使用しなかった製品を使用再開する場合は、機器が正常に動作するか十分な点検を行ってください。

・**点検時に異常が発見された場合**は、製品の使用を中止して最寄りの弊社営業所までご連絡ください。

・清掃等の簡単な保守は機器の管理者等によって実施するようお願いいたします。

● 始業点検項目

区分	点検内容		点検方法
（電源投入前） 外観	周囲の障害物の有無		目視
	カバーのはずれ、ガタつき、取付ネジの緩み、脱落		目視または、触って確認
	浴槽内及び循環タンク内の汚れ、または不要物		目視
	給湯口、循環・新湯タンクからの湯の漏れ		目視
電源投入後） 機能	温度表示・時間表示の点灯		目視
	給湯をする	給湯ミキシングの温度調節	高温側と低温側に回し温度表示が変化することを確認
		高温時または低温時の給湯停止	給湯温度を 35℃以下にしたとき差し湯/給湯温度表示の数字が点滅し、給湯が停止。48℃以上にしたとき差し湯/給湯温度表示の数字が点滅し、給湯が停止することを確認。 **（確認後、40℃前後の適温に戻すこと）**
		給湯完了後の湯温	手で循環タンク内の湯が適温であることを確認し、表示と比較
	差し湯を出す	高温時または低温時の湯温異常表示の確認	差し湯温度を 35℃以下にしたとき差し湯/給湯温度表示の数字が点滅。差し湯温度を 48℃以上にしたとき差し湯/給湯温度表示の数字が点滅することを確認。 **（確認後、40℃前後の適温に戻すこと）**
	シャワーを出す	シャワーミキシングの温度調節	温度調整ノブを回し高温低温の調整が可能か手で確認 **（確認後、40℃前後の適温に戻すこと）**
	ドアの開閉、底面シールの開閉		開閉がスムーズで異常がないか確認

保証とアフターサービス

✹ 保証書と保証期間

・保証書（別添）はよく読んで大切に保管してください。保証書がないと保証期間中でも代金を請求させていただく場合があります。
・保証期間は、正常な使用状態で故障した場合、本体フレーム及び FRP 部品は 5 年間、それ以外は 1 年間です。詳しくは保証書をご覧ください。

✹ 修理を依頼される場合

・修理を依頼されるときは、下記のことをお知らせください。

機種名　　：　*LA-500*
お買い上げ：　　年　　月
故障状況(できるだけ詳細に)
住所，氏名，電話番号

メーカーより指示のあるとき以外は、決してカバーを開けたり、機器を分解したりしないでください。

✹ **耐用期間**

10 年：保守点検などの当社推奨環境で使用された場合

✹ 定期保守点検契約のお勧め

製品を長期間正常な状態で安全にご使用できるように保証期間後の「保守点検契約」の締結をお勧めいたします。詳しくは別添の「保守点検契約のお勧め」をご覧になるか、最寄りの弊社営業所へお問い合わせください。

✹ 消耗品

（使用により、量などが減少していくもの）

シリコングリス / 薬液（6%次亜塩素酸ナトリウム溶液）

補給は、お客様により実施願います。

✹ 損耗品

（使用により、磨耗･劣化･変質等が生じ、本来の機能が発揮できなくなるもの）

・正常な使用において、交換の目安が**約２年**のもの。

シャワーヘッド / 作動油 / 薬液ポンプの継手配管 / 薬液チューブ

・正常な使用において、交換の目安が**約３年**のもの。

ミキシングバルブ / シャワーホース / 給湯給水ホース / 排水ホース
油圧ホース / 温度センサー / 止水栓パッキン

点検の時期が来ましたら弊社営業所までご用命ください。点検して必要により有償交換いたします。

✹ 保守部品の保有期間

保守用性能部品の保有期間は、販売中止後 10 年です。ただし、性能部品が製造中止などにより入手不可能になった場合は、保有期間が短くなる場合もあります。

仕 様

型　　式		LA-500
浴槽	外形寸法	2549(Ｌ)×1044(W)×1200(Ｈ)mm
	浴槽内寸法	1310(上)～1220(下)×700(W)×635(Ｄ)mm
	実使用湯量	約 300ℓ(身長 160 cm、体重 57 kgの場合)
貯湯タンク容量	循環タンク	約 300ℓ
	新湯タンク	約 100ℓ
質　　量		約 400 kg
電　　源		三相 200V　50/60 Hz　30A
電　　力		900/1340W
材質	フレーム 貯湯タンク	ステンレス、スチール＋粉体塗装
	浴槽・ドア・カバー	ＦＲＰ製
ドア・底面シール駆動方式		電動油圧式
安全機構		高・低温時自動給湯/送湯停止機構、漏電ブレーカー、ドア自動一時停止機構、急速排水機能
そ の 他		給湯・循環タンク内・浴槽内デジタル温度表示 入浴時間計
付 属 品		•取扱注意銘板 •シリコングリス •ハケ •希釈ボトル •取説ポイント DVD

注．都合により予告なく仕様の変更を行う場合があります。